

平成25年第1回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成25年3月12日（火曜日）

午前10時開議

邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	塩井早苗	議員	2番	原義裕	議員
3番	松村潤	議員	5番	神谷長平	議員
6番	半田晴	議員	7番	坂井孝次	議員
8番	大野貞夫	議員	9番	田部井健二	議員
10番	小沢泰治	議員	11番	岩崎律夫	議員
12番	小島幸典	議員	13番	立沢稔夫	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
堀井隆	副町長
大竹喜代子	教育長
飯塚勝一	総務課長
小倉章利	企画課長
諸井政行	税務課長
吉田紳二	住民課長
相場利夫	生活環境課長
小島敏晴	保険年金課長
河内登	福祉課長
大舩一	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長
小島靖	都市建設課長
半田実	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
神山均	学校教育課長
半田康幸	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開議の宣告

○立沢稔夫議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○立沢稔夫議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続きまして行います。

順次発言を許可します。

◇ 塩井早苗議員

○立沢稔夫議長 1番、塩井早苗議員。

[1番 塩井早苗議員登壇]

○1番 塩井早苗議員 おはようございます。議席番号1番、塩井早苗でございます。昨日、東日本大震災から2年が過ぎ、亡くなられた方のご冥福を祈り黙祷をささげました。心から哀悼の意を表します。また、もとの生活に戻れないでいる多数の被災者の方々の復興を心から応援申し上げます。

通告に従いまして一般質問を行わせていただきます。さて、上州名物かかあ天下と空っ風は昔から有名でございますが、このところの空っ風にはすさまじいものがありました。土ぼこりが舞い上がり、家はガタガタと鳴り、視界は100メートル以下のこともございました。煙霧という現象もありました。初めて聞いた言葉でございます。家々の木々は揺さぶられ、車を運転するとハンドルをとられてとても危険を感じました。3日前の異常に発達した低気圧は、北海道の東付近で960ヘクトパスカルと発達しました。まさに台風並みでございました。この自然現象には手を打つものがない。嵐が去るのをひたすら待つばかりです。この強風で畑地から乾燥し切った土が舞い上がり砂嵐になっていたのです。その中で、生活人として困ることが起こりました。家の中の床やテーブルはざらざらで掃除が追いつきません。どうせまた風が吹くから掃除は後回しにしようとして一歩転じて外へ出れば、雪の吹きだまりのように道路に土が集まっています。バイクや自転車は、砂にタイヤをとられるほどでございました。子供たちは、砂嵐の中を下校しています。まるでマカロニウエスタンのような映画のようでありました。これは、どうにかしなければならぬというのが正直な気持ちでございます。

では、なぜ畑地から土が舞い上がるのか。それは、作物がつかられていないからです。または、まいてある麦もまだ風を避けさせてくれるまでに成長しない現状があります。現在日本の農業、邑楽町の農業についても、農業従事者の高齢化や後継者の不足、そして耕作放棄地の増加など、多くの問題が山積し、今後5年、10年の農業の展望が開けない地域がふえていとお聞きしています。町内でも農業についていろいろお話を聞きますと、農地があるので仕方なく自分はやっているけれ

ども、自分の代で終わりだ。農業機械が高くて買えないし、営農組織とか地域の方たちに、大農家に頼りだしているのが現状だよというお話をお聞きします。

そこで、産業振興課長にお尋ね申し上げますが、現在の呂楽町の農地面積はどのくらいあるか。また、呂楽町は麦の栽培が盛んですが、裏作として麦の作付をしている面積について教えていただきたいと思います。

もう一点、現状で耕作ができない状況が必然的に発生していると思われませんが、こういった場合、農地が耕作放棄地になるケースが多いと思われまます。呂楽町の耕作放棄地の面積と現状等をあわせてお願いいたします。よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 大臈産業振興課長。

〔大臈 一産業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○大臈 一産業振興課長兼農業委員会事務局長 お答えいたします。

まず、農地の面積でございます。平成22、23、群馬県の農林水産統計年報、こちらによりますと、呂楽町の耕地面積は1,520ヘクタールとなっております。そのうち田については1,230ヘクタール、畑につきましては290ヘクタールとなっております。また、呂楽町の米の作付面積につきましては、平成24年度で水陸田が1,171ヘクタールとなっておりますが、呂楽町では米の裏作に麦の作付を行う農家が多くなっております。米の作付を行った水陸田の約59%に当たる693ヘクタールについて、裏作として麦の作付が行われております。このほかに畑部分への麦の作付が行われております。

もう一点、耕作放棄地の関係でございますが、平成21年に調査を行った結果、約8ヘクタールの耕作放棄地が確認されております。この耕作放棄地につきましては、管理がされず草等が生えている農地という意味でございますが、呂楽町でも耕作放棄地が増加する傾向にあります。最近では10ヘクタールぐらいに増加しているのではないかとされておりまますが、現在農業委員会で耕作放棄地の調査を行っておりますので、はっきりした数字が間もなくつかめると思います。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 ありがとうございます。呂楽町の農地面積や米の裏作として、麦の作付面積がわかりました。麦の作付面積は、水陸田のうち59%に当たる693ヘクタールということですが、そのほかに畑部分にも麦が作付されているということですが、大きな面積に麦の作付がされていることがわかりました。先ほど農業従事者の高齢化や後継者の不足、耕作放棄地の問題にも触れました。また、これも増加傾向にあるということがわかりました。農林水産省の統計によりますと、日本の農業就業人口は毎年十数万人ずつ大きく減り続けており、2008年、平成20年で298万人、このうち約半数の140万人が70歳以上の高齢者が占めまして、20年後を担う39歳以下は35万人にとどまるそうです。農業従事者の高齢化の事実は、現実の問題だと思いまます。

呂楽町の農家数や従事者の年齢、後継者についてはどのようになっているのでしょうか。また、そ

ういった状況の中で、地権者が自分の農地を耕作できない状況があります。こういった場合、邑楽町では集落営農組織や農業法人の数は、どのようになっていますか。また、これらの組織についても、さまざまな問題を抱えていると思いますが、そのような問題がありましたら教えていただきたいと思います。産業振興課長にお願いいたします。

○立沢稔夫議長 大臈産業振興課長。

〔大臈 一産業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○大臈 一産業振興課長兼農業委員会事務局長 お答えいたします。

まず、邑楽町の農家の数でございます。先ほども使いました平成22、23の群馬県の農林水産統計年報、こちらによりますと、農家数につきましては、これは販売農家数ということで、販売農家数につきましては、経営面積が30アール以上、1年間の農産物の販売金額が50万円以上の農家ということでございますが、こちらの数が877戸となっております。農業者の年齢につきましては、やはり販売農家、主に自営の農業に従事した農業者数ということで、全体で927人ということですが、そのうち70歳以上の従事者につきましては461人で、全体の50%ということになります。

また、後継者につきましては、邑楽町の農業青年会議に登録している人数、40歳以下ということですが、そちらの登録者が12名となっております。

また、これから農業の担い手としての集落営農組織ですが、現在光善寺、藤川、渋沼、坪谷・八丁の4組合、また組合法人として中野農事組合、長柄農事組合の2つの法人組合、認定農業者、こちらが72人登録されております。

集落営農組織の問題点ということでございますが、次期のリーダーや後継者不足、農業機械のオペレーターの不足、また圃場が分散しており効率が悪い。組合員の高齢化、高額な大型農業機械導入の資金不足等の問題があるということでございます。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 70歳以上の農業従事者が50%を占めているという回答をいただきました。若い40歳以下の方は12名おられるということですね。まさに邑楽町の農業を担う金の卵とさえ言えるでしょう。集落営農組織は4件だけ、組合法人等が大きいのでしょうかけれども、2件、認定農業者72人ということに、統計調査22年から23年の調査をいただきましたので、最新版ということで理解します。問題点もたくさんあるようです。次期リーダーや後継者、機械のオペレーターの不足、圃場の分散による効率の悪さ、組合員の高齢化、高額な農業機械導入の資金不足等があるということがわかりました。昨日も一般質問の中で邑楽町の農業に対する展望はどうだろうということが上がりました。5年先、10年先はどうだろうということですね。

次は町長にお聞きします。農業従事者の半数が70歳以上ということですので、非常に高齢化が進んでいると思います。75歳とか80歳以上の方たちもおられるということです。本当に5年先、10年

先には従事するのは難しい状況になってしまうのだと思われますけれども、今後高齢で農業ができなくなってしまった場合、または後継者もできなくなっている農業をどうするのか。農地を引き受けてくれる営農組織や認定農業者がいない場合、耕作放棄地となってしまう可能性もあるということです。これらの問題点について、対策を早急に考えなくてはならないと思います。町長のお考えをお願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 邑楽町の農業に限らず、この農業振興については、今議員が言われましたように、大変この高齢化の問題をあわせて耕作放棄地の増大と、課題が多くなってきています。これらをどのように改善をし、魅力ある農業にしていくかということのお尋ねですけれども、町の現状では、先ほど課長が申し上げましたような経緯はあるわけでありまして、それぞれ今、町の中でも土地の集約をしてその振興を図っていくということで、4つの集落営農組織があり、そして2つの農業法人があるわけですが、そういった集落組織の強化、それを引き続いて法人化をしていくということのこの進め方が、今後ますます求められてくるのではないかとこのように思っています。現に昨日の質問にもお答えをいたしました、この町のほうでもそれぞれの有識者に集まっていただく中で、邑楽町の人・農地プランの策定を現在行っているところでもありまして、その主な仕事は、今言われました後継者の問題をどのように考えていくか。それから、耕作放棄地について、現在8ヘクタールほどというお話がありましたけれども、これらはますますふえていこう。この耕作放棄地の問題をどう解決していくか。あわせてこの農業の経営面について、どのような形でこの効率的な経営をし、農業として十分その経営が行われていくかということについて研究をしていただくことになっておりまして、もちろん国のほうもこのプランニングをすることによってそれぞれの有効な手だてを考えていくということもあります。ぜひ先ほど後継者の方が12人というお話もありましたけれども、そういった若い方が魅力ある農業として進めていけるようなプランを策定していただいて、そして町の農業振興が今以上によい方向に向かうように努力をして、町のほうとしても応援し、努力をしていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 ありがとうございます。もう一点ですが、冒頭でお話しした西風のときのことで、2月下旬ごろから23日、24日、25日、特に強かったですけれども、今月に入っても連日というほど大変強い西風が吹きました。先週の金曜日、議会の初日ですが、穏やかな暖かい昼間でしたが、午後3時ごろから強風が吹き荒れました。その後委員会室のほうに行きますと、3階の北側の委員会室では、ガラス窓がガタガタと鳴り、まるで地震が来たかと思われるほどでございました。これらの西風によりまして、町内のあちこちで物すごい土ぼこりが起きました。特に農地部分の風がひどく当たる部分においては吹きだまりができ、水路や道路が埋没してしまう被害も発生してい

ると聞きました。この原因となっているのが冬場の作物がつくられていない畑の部分で、吹きだまりができたようです。先ほど麦の耕作はかなり広範囲で行われるということが示されましたが、吹きだまりができるのは麦等の耕作がされていない場合、その場所が多いのではないかと思います。問題の起こる場所も限定されていますので、冬場の野菜栽培や麦の作付を推進するということで、補助と支援等ができないだろうか。先ほどのお話で、プランを策定中ということで、今後展望が開けるのではないかと思います。事は急いでおり、この異常気象は、さらに異常気象を呼びます。温暖化を促進させて農地の砂漠化、全世界中に当たる砂漠化というようなものを引き起こしているように感じております。

私がこの間ちょっと見たのですが、太田市のさざえ堂の東のところに、今紫色に畑が一面きれいになっていたのです。車からおりまして見させていただいたら、ホトケノザが、雑草ですけれども、どこにももう紫の色が道端に生えている、ホトケノザという花がございますけれども、それが畑一面に咲いているのです。レンゲとかですとまだ今の時期花が咲きません。それに、農地の水を保全させるまでにはなってくれないのです。というような少し素人考えであるかもしれませんが、実際そのすぐ近隣の太田市のさざえ堂の東のほうにあるホトケノザを見ますと、何か方法があるのかなという感じを受けてきました。あとは、インターネットでの情報も見ますと、聞きなれない言葉ですが、フェアリーベッチというレンゲに似たような、空中の窒素を農地に固定するという外来種の作物があるそうです。そういうのも促進していくことが考えられます。今後の支援というのはどのようにお考えでしょうか、お願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 西風による土ぼこりの問題については、ここ昨今大変な異常気象といえますか、特に風と雨が少ないものですから、そういった気候が大きく災いをしているという部分もあるだろうというふうに思いますけれども、さてそれはそれといたしまして、農地に作物の作付をするということが、やはり一番効果的かなというふうに思います。先ほど課長の答弁の中にもありましたけれども、裏作の作付が約59%ほどであるというお話がありました。これには大変農家のほうも、実は国のほうの補助制度もあるわけでありまして。小麦を栽培して、それを出荷するということになりますと、今の価格ですと大変認定農家を受けているかそうでないかというのもあるのですけれども、1俵当たり売り渡し価格が2,000円というような低価格、それからビール麦等を栽培した場合についても、やはり低価格ということでありまして。これは国のほうからの補助制度がありますので、それで多少潤っているという部分があります。

そのような状況がありますので、この営農者が作物の作付をするということが非常に大変な状況であるのかなというふうに思います。では、作物以外に今言われましたレンゲ等の栽培ということもありましたけれども、大変前には農地にレンゲ等の栽培もあったこともありましたが、最

近ではその栽培も大変少なくなって、まず皆無に等しいのかなと。土壌的には大変この還元作物で土壌改良にはいいとされておりすけれども、残念なことに作付がされていない。やはり栽培する場合でも土ぼこりが立たないようにするまでのいわゆる種の播種、種をまく時期にもよりますけれども、それによってやはり生育がそこまで進まないというふうな状況もいろいろあるわけでもあります。さてでは町のほうでその土ぼこりを解消するための支援策ということになります、現状でも実はつい先日にもその土ぼこりの問題でその被害といいますか、道路に蓄積した土を何とかしてほしいというような連絡もありまして、実はその箇所ではその土をみずからその近所の方々が役員を含めて片づけていただいたというようなこともあります。それに対しての支援ということ、具体的にまだないわけでありすけれども、やはり地域の方にご協力をいただいて進めているというのが現状でもあります。作物を作付する場合の費用負担の支援策ということ、現在特に考えてはおりませんけれども、これからどのような方法がいいのかということも含めて、できるだけ農地に作物の作付をしていただいて収穫をしていただくようなことが一番いいわけでもあります。認定農家の皆さん、あるいは集落営農の皆さんにもそういった点を十分お願いをして、この協力をいただくような状況をまずつくっていくことが先かなというふうに思いますので、支援策について、特に具体的にこれということを申し上げなくて大変申しわけありませんが、今後の研究課題にさせていただければと、こんなふうに思います。

○立沢稔夫議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 ありがとうございます。支援策は考えていないということですが、その農地プランの作成等で今後展望が開ければというふうに感じております。私の願いとしましては、昔子供のころ広がっていたレンゲ畑とか菜の花畑の復元を願っております。黄金色に輝く麦畑、それから刈り入れの後には一面に広がる水田、ドジョウやタニシがとれまして、夏には蛍が乱舞する、そんな風景を夢に見ております。日本の原風景と言える四季折々に変化する田園風景を保全して、川の保全、山々や平地林の保全は大切なことです。豊かな郷土を守り子供たちに残すのは、私たちの使命であると感じております。ぜひ呂楽町の商工業の発展とともに、すばらしい農業も残していただきたい、これが願いであります。調和のとれた開発を行うことが必要であります。

これで一般質問を終わりとさせていただきます。ありがとうございます。

○立沢稔夫議長 暫時休憩します。

〔午前10時30分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前10時45分 再開〕

◇ 本 間 恵 治 議 員

○立沢稔夫議長 14番、本間恵治議員。

〔14番 本間恵治議員登壇〕

○14番 本間恵治議員 14番、本間恵治でございます。発言通告に従いまして順次質問させていただきたいと思っております。町長の政治姿勢についてということで質問させていただきます。

町長が初当選されて以来現在に至るまで、いろんなことが起こりましたね。それを私は一つ一つ、こんなことがあったということと言わせていただきたいと思います、私は町長のあらを探すつもりで言っているのではないのです。これからの町長の政治姿勢に生かしていただいて、同じ過ちを繰り返さないような、やはりそういう邑楽町の代表としての資質をきちんと身につけていただきたいというふうに念願しながら質問させていただきたいと思っております。いろんなことがありました。それについてコメントを少しずついただきたいと思います、深く言う必要はありません。ただ、こんなことがあったと、それについて反省の意味で一言二言、町長が現在それを振り返ってどんなふうに思っているのか、お聞かせいただければと思います。

町長が初当選して就任以来、当初の公約、退職金0円、100%の情報公開、教育と福祉の充実、広域行政の取り組み、隣接市町との積極的な対話推進、調和のとれた地場産業の育成、月1回の町民との直接対話、土曜、日曜日の議会の開催、町民との協働による町づくり、今も言い続けていますね、協働による町づくり。そして、スピード感あふれる町政運営、こういう公約を掲げながらやってまいりましたけれども、退職金0円の取り組みについては、当初はできると。群馬県総合事務組合の退職金支給条例を改正すれば0円にできるのだというふうな答弁をしたりした中で、当初は退職金はもらわないというふうな形の中でやってまいりましたけれども、それを振り返って、現在町長はどのようにその公約に掲げたことについて思っているのか、そんなに長くならなくて結構ですから、反省の意味を込めて答弁していただければと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 退職金をいただかないということについては、結果としてそれができなかったということで、大変議員の皆さんにご迷惑をおかけした経緯はあります。そういうことで現在に至っているわけでもありますので、公約はいたしましたけれども、結果としては、そのような考え方で、できなかったということでお答えをしたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 いろんなことがありましたね。その後亡くなられました大野栄議員の一般質問の中で、町議会議員選挙における収支報告書未記載問題というのがありました。お金を配ったという中で、収支報告書の追加修正はしないと当初言っていましたけれども、最終的には収支報告書の追加修正をして提出したという経過がございます。このことについて、町長はどのように現在お考えなのか、お聞かせ願いたいと思っております。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この問題については調査をされた、司法という言い方が適切かどうかわかりませんが、その中で判断が示されたということでもありますので、それ以上のことは、私から申し上げるということは控えさせていただきます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 このことについては、公職選挙法第189条第1項第2号違反及び多数の有権者に対する現金配布についてということで、群馬県警察本部並びに大泉警察署に要望書を提出することについての決議案ということで議会で議決をして、双方の警察に議会の意を伝えたというふうな経過もございます。このことについてどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議会で決議されて提出をされたということは、議会の判断ということで受けとめておりまして、先ほども申し上げましたけれども、警察当局の捜査によって、その判断が結果として示されましたので、そのようにお答えをいたします。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 次に、財政調整基金の取り崩しについて、議会で条例違反ではないかというふうな話の中で、町長は撤回しますということで1度撤回したのですね。そして再提出をされた。これは平成20年ですか、3月18日に撤回をし再提出、その日のうちに出したのですね。5,032万4,000円の減額で出したのですが、これは審議未了で廃案にされたのですね。そういう経過がありました。そして、第1回の臨時会、3月25日に開かれて、一般会計と各特別会計の暫定予算が可決されたという経過がございます。これについては、財政調整基金は、この当時は取り崩してはならないという議会の判断のもとに1度は撤回をさせられ、そして暫定予算を組まされ、そしてその後予算を通していただいたというふうな経過がございます。このことについて、現在町長はどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 財調の取り崩しについての考え方ですが、財政調整基金の目的は、災害の復旧、地方債の繰上償還、その他財源の不足を生じたときの財源を積み立てるものというふうになっているわけですね。その取り崩しについて、過去の例では、それに相当する財源手当として取り崩しがなされましたが、私が就任した最初の平成20年度当初予算の中では、そのような議論の中でその取り崩しについては、だめですよというようなことで、大変予算の可決までに時間を費やしてしまったという経緯はあるわけでありまして、やはり現在でもそういう点では、財政調整基金は町予

算の財源の調整弁的な役割を担っているというふうに思っております。そのような経過を踏まえて、議会に事前に協議をしてから取り崩ししなさいという事項が入りましたけれども、現在ではそれに倣ってお示しをしているところでもあります。しかし、財政的に余裕があればこれを2分の1、財政調整基金のほうへ積み立てているということもありますし、それは町行財政の需要に備えるということでの積み立てということでもありますので、この財調の取り崩しの考え方については、今申し上げましたように財政調整基金、いわゆるこの財源の不足を生じたときにこれを取り崩しするということが私は必要であろうと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 今、財政調整基金の話がここへ出たので、これにひっかけて、先のこともあるのですけれども、話をしたいと思います。平成25年度の一般会計予算の中で9,000万円の財政調整基金の取り崩しがしてあります。私は、全員協議会の中でも9,000万円ぐらいの財政調整基金は、もう少し集約すればのせなくても25年度の予算を組めるのではないかということで、私は発言しました。今まで金子町長が予算を組んでいた中で、大体お金が余って基金に繰り入れたりやっているわけですね。そうすると、25年度の予算が1年たったときに9,000万円以上お金が余ると思うのです。今までだったら不用額いっぱい出ていますよ。25年度の不用額はどのぐらい出るのか、その見込みでいいですから、町長の頭の中でどのぐらい、9,000万円多分私は超えると思うのです。今までの例でいけば、大体水増ししてあるのですよ、大体。多目多目に予算に入れて、決算したらうんと余ったと。結果的に余ったから基金に繰り入れたりやっているのです。こんな9,000万円ぐらいのお金を入れなくても私は予算組めると思うのですけれども、それについての見解をお伺いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、平成25年度の予算の中でどれくらい余るかというご質問にお答えしますが、歳入歳出同額で組んでおりますので、予算の積算の中では、そのお金が余るというような考え方は持っておりません。しかし、議員が言われますように結果として余るというようなことがあります。それはいろいろな行政需要を経過した中で結果として余るということでもありますので、私は歳入歳出とも同額ということの考え方からすれば、今どれくらい余るかというようなご質問ですが、それは歳入歳出0円ということでの、余りについては、余剰金については、ちょっと今考えられないということでお答えしたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 これは、会議録にとっておいていただいて、1年たったときにどのような結果になるか、見ればわかりますよね。多分今までの財政的なことからすれば、切り詰め切り詰めて予算を計上することが、私は緊縮財政につながっていくのだと思うのです。ふかしてふかしてそれ

で結果的にその分から削って余して、これだけお金が余ったと、そういう予算のとり方というのは、それではお金があるからといって、これは少し使えるからもう少し使おうとか、そういう形になるわけでしょう。そうすると、結果的には各課がそういう予算の組み方をすれば、当然無駄遣いが出てくるのですよ。だから、いっぱい切り詰めて三角三角で出てきているのではないですか、前年度の決算見ればわかるでしょう。何でこんなに余るのだって。結果的には切り詰めさせて余らせたという言い方もできるかもしれないけれども、それだけ要らない金を最初から予算に盛り込んでおいたのではないかと、そういう考え方だったってあるのですよ。逆な発想はそういうことですよ。決して私は、ずっと今までどんどん、どんどん前年度よりも予算をふやして予算組んでいたではないですか。最終的には3年ぐらいの前の予算からすれば十二、三%ふえていたのですよ。結果的には。そんな予算を組んでいて、今回初めてマイナス2.5%ですか、減らした。その前12%以上ふえていたのですよ。まだ10%ふえているの、予算からすれば。計算からすれば。そういう予算の組み方をして、では新しい新規事業何やったのだと。金子町長になって何をやったのだと。よくそれを見据えた中で、私は本当に精査した中で予算を組むべきだと思うのです。そうでなかったら、職員の皆さんだったって、無駄遣いしないようにしないようにと、当初予算をぎりぎり組めば、やっぱりその中で精いっぱいやるのですよ。それが執行側の姿勢でしょう。みんなの税金ですよ、血税ですよ、本当のこと言って。それがどんどん滞納がふえてきているわけですから、そういう結果の中には。余り言い過ぎるとあれですから、それは1年たったときに結果が出ます。私が言ったことをまた再度そのときにただしますので、よく念頭に置いて予算執行に当たってください。

次に行きます。町長、副町長、教育長、これは平成21年ですけれども、三役の給与を半減とする修正案、議会に出されて可決されました。これは議会で可決された、なぜ可決されたのだろうか、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 その前に、予算に対する議員の考え方は、一つの考え方としてあると思いますけれども、執行部としては、そういうこの行政需要を満たすための金額ということで積算をして予算化しているということでもあります。

それから、給与の50%減額ということではありますが、私自身の真意は、その50%を減額されたということは、議会で決議をされたことですから、そのとおり実行してまいりました。しかし、この給与の問題については、いろいろその背景があるわけではありますが、そういった背景を踏まえて修正案が出されたということでもありますので、私自身の本心を言えば、50%減額ということは、大変残念だったなという思いはあります。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長正直ですね。半分にされたのはそうですか。でも当初、退職金はもらい

ませんということで、それができないからということで議会でこういう可決に至ったのですね、結果的には。それが2期目になっては、自分で満額もらいますということで出してきた、議会からいろんな反対意見が出て、渋々三役10%カットしたのですよね。今回町長みずから出してきたのは、町長が20%でほかの教育長、副町長については15%と。では、何でこういうふうにもみずから出してきたのですか。前の反省を踏まえて、これならすんなり通るだろうとか、そういうふうにしたから出してきたのではないのですか、お答えを聞きたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、議会が始まった冒頭、議員のほうからもいろいろご指摘をいただきました。そこでお答えしているところでもありますが、特に10%から20%ということについては、いろいろ状況といたしますか、国家公務員の職員の給与問題等で削減をされているということがあります。その財源手当としてこの災害の復興支援財源に充てるというような背景があるわけでもありますので、そういうことを考えて、私自身と同時に副町長、教育長についても前の金額から減額をさせていただく中で提案をさせていただいたということでございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 いろんなことがありましたよね。職員の職務違反、守秘義務違反の問題がありました。これは、当初は税金の滞納ということだったのですね、それがいつの間にか水道料金の滞納にかわり、そして申し出た方が降格処分を受け、町長も給与を何%かカットした中で、最終的にはその方は退職なされたというふうな経過がありますけれども、このことについて、町長はどのようなお考えを持っているのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 このことについてどう思っているかということについて、もう少し具体的にお願ひできれば回答も具体的にできるのですが、お願いいたします。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長の身内でもあるし、名前を出すわけにはいかないですね、もうやめた方ですから。私は、当事者のほうから相談を受けて、小倉議員がただしたのですね。それで、隣にいる副町長が総務課長のときにいろいろ調べていったら、本人から申し出があつて、水道料金の滞納だということで、その方は責任をとらされたような形で終わっているのです。でも私は、その当事者からは、税金の滞納だったのです。それをあなたの身内の引っ張りになっている方が言いふらしたと。それを近所の方に話したので、商売もやっているし、そういう部分では名前も出せないから、私はそのまま誰かが責任とったのだから、しょうがないのかなと思って黙っていましたが、本来は税金の滞納だったのです。住宅をつくるのにその方が言いましたよ、家をつくるのに税金の

滞納があるとお金が借りられないのですよね。ですから、全額返して、それで住宅ローンを組んで家を建てたのだと。十何年も前のことを持ち出されて、今近所に言われたりしたのでは、旦那さんも商売やっているし大変だという相談を受けて、私は小倉議員のほうから提案をさせて質問していただいたのです。そういう経過もあるのです。それは、税金の滞納だったのです、最初は、いいです、これは。結果的には責任をとった方がいるし、それはあなたの身内ですよ。それだけは申し述べておきます。

次に行きます。前後しますけれども、そのところに幾つもあるので、私はそのところへ行ったら、その話をずっとさせていただきたいと思います。町長になられて、昇任試験制度というのを導入しました。最初は、平成21年3名が受験して全員合格、係長が課長補佐になったのです。翌年ですよ、その前に私は質問したことがあると思うのです。3人しか受けなくて何が昇任試験だと。そうしたら、広く募集をして全員に受けてもらうようにするというふうなそのときのお話でした。それが22年になったら受けたのが4人しかいないのです、4人。係長が1名、課長補佐が2名、課長職が1名と。4人の方が受けたのです。それで、平成23年は3人しか受けていない。係長職が1名、課長補佐職が2名、3人なのです。どういう人に審査してもらうのだと言ったら、大学の教授に、論文書かせてそれを見て選ぶような話をしましたけれども、点数つけるような。論文だなんていうのは、見る人によって主観が入りますから、私は、3人いれば3人が違う人を選ぶ可能性だってあるのです。こんなの無意味ではないかと、そういう話もしましたけれども、このことについてどのようにお考えですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昇任試験制度について、今議員が言われましたように受験者が少なかったということとはございました。現在では、昨年が7人ほどということで受験をしていただいておりますし、そういう点では、職員の方々がこの昇任制度に向かって頑張っているのだなというふうに思っております。その過去の議員の質問のときにも申し上げたかと思いますが、この昇任試験制度、あわせて今人事評価制度も導入をしようとしているわけでもあります。これは、今2課で試験的にその導入をしてこの制度に向けて人事評価制度もやっているところでもありますので、そういうものが充実をして、完全に取り入れられるということになれば、そういった昇任試験制度というものもいかなかなというふうに思っておりますが、そういうお答えをしたこともあるかと思えます。その論文の採点を、これを他にお願いして、現在でもそういう形で進めておりますが、その結果と、それからその人的ないわゆる資質の問題もどうなのだろうかということで、最終的にこの判断をして昇格ということにしております。私はそのような受験者がふえている、そして過去昇格をしていた方々も熱心に業務に取り組んでいただいているということを考えれば、決して無のものではなかったかというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そして、次に入ります。9月30日、前川田教育長が任期満了により退任なされました。その後、後任の教育委員の任命が決まらないで、ずっと議会の中でぎくしゃくしてきたのですね。名前は出されましたけれども、結果的には議会にはかからずに、その方は抹殺されたような形で終わったのですよ。この2回ほど議会に出そうとして町長試みたと思ったのですけれども、実際には議会に出す前に取り下げたような形ですね、結果的には。全員協議会には話があったけれども、議会にはかかっていない。こういう経過がありますね。そのことについてどのように反省をしていますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 教育委員の件についての反省ということですが、空白期間をできるだけとらないよということでの考えで、その該当する方をお願いをすべく議会のほうにも全員協議会の中で報告をさせていただきました。しかし、提案をする直前に取り消しをしたということは、そのとおりでもあります。人事案件でもありますので、慎重に考えていかざるを得ないということで、私自身取り消しをしたということでもありますが、結果としてその該当する方に大変な迷惑をおかけしたということについては、申しわけなく思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そして、平成22年ですね、いろんなことがありました。予算を撤回して廃案になったり、そういうことがありました。このころ、議会に対して町長が口だけだというふうなこともあって、謝罪文を書かされていますね。これは、修正と撤回ということを、私は町長わからなかったのだと思うのですけれども、訂正すれば済んだことを撤回しますと言ったために、撤回というのは、全部白紙に戻すということなのですね。また、予算審議から全部委員会を通して再度上程をするような形になったのですね。平成22年度一般会計予算ほか各予算につきまして原案を撤回し、第1回臨時会において再提案いたしましたことにより、結果として地方自治法第211条第1項の規定に抵触する事態となりましたことをおわびいたしますということで、わび状を書かされたです、議会のほうに。口頭で言ったのでは残らないし、またやるようではしようがないということで書かされているのですよね、自分でこれ書かされましたね。このことについてどう思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 その撤回の謝罪文については、この町の執行する機構改革の課の設置条例がその原因だったかと思えます。その中で、その課を変更するに当たり、当初予算がそれに当たると。新しくつくった庁舎で即移動して予算を執行することは何事だということだったと思えます。そのときは、できるだけ機構改革をして行政事務を円滑にという考え方でありましたけれども、これも十分

な説明がなされないままそのような形になったわけでもありますので、その結果、謝罪文を入れたということについては、これは大変私自身も申しわけなく、これからの反省として、そういうことがないようにやっていかなければと、そういうふうに思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そうですね、これは今私も思い出しましたがけれども、これは課長が2人やめるといふ形の中で、行政改革を行おうとして提案されたのですけれども、お金が伴ったのですね、電算システムか何かをできたばかりで動かすということで、300万円先のお金がかかるということで私は反対した覚えがあります。現在の都市建設課が合併したときには、隣同士で1つになるということで、別に当たりさわりのないから私はそれについては、議会でも承認されたと思えますけれども、このときには庁舎ができて間もなく、そしてしかもお金が伴ってその課を合併することについては、できたばかりで町民の皆さんもどこの課があるかもわからないような状態の中でそれを統合するというのは、いささかおかしいのではないかとということで、私はそれについては反対した覚えがあります。そういう経過がありました。

そして、そのときに、教育長、教育委員の任期満了に対して、その中で何度にもわたっていろいろなことがあったのです。最終的に町長が先ほど言ったのは、取り下げ理由ということで、またこれも書かされているのです。「今回、教育委員の任命につき同意を求めることについて、選定方法や教育委員の地域バランスをのぞき受け、議会と時間をかけ協議、相談をする必要があると判断し、提出予定、同意第1号 教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて取り下げいたしたくお願いします」ということで、「議会の皆様と先生には大変ご迷惑をかけて申しわけなく、心よりおわび申し上げます」と。「以後このようなことがないように努力していく所存で、よろしく願いいたします」ということで、これも書かされているのです。これみんな言った言わないになるからということで、言葉で書かされているのです。これは、ちゃんと文書に残っていますから、そういうことなのです。

そして、町道幹線19号線にかかわる、このときに土地収用法の手続関連の予算を可決したのです。私は反対しました。なぜならば強制執行、絶対できないからということで私は反対したのですけれども、結果的には地権者の方に賛成をいただいて先へ進んでいるわけですが、これも賛成をいただいて平成27年に完成だということで、ずっとそのままの状態です。これだってこういうことこそ基金を使ってでも真っ先に私は、早くできるのであれば、一日でも早くこの道路を完成させたほうがいいのではないかなというふうには私は思っているのですけれども、県の補助とかいろいろなことがあるから、絡みがあるからできないと言えればそれまでなのですけれども、やはり町長として、せつかく地権者の方に賛成をいただいて進んでいるわけですから、一日も早く事に当たっていただくということが、私は必要なのではないかなというふうに思います。いろいろなことがあったのです。そして、二度にわたって教育委員のことについては取りやめということ

で途中を出してまた取り下げてということであったのです。

そして、平成23年、町長の退職金を全額支給するための町長、副町長及び教育長の給与特例条例の一部改正について、提案を町長のほうから出されたのですね。これは、議会によって否決されているのです。私一人ではないです。議会で否決されたということは、過半数以上の方から否決されたのですね。ここの提案についても、町長はどのようなお考えのもとにこれを提出されたのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これを提案をした理由ですけれども、ここ平成23年まで来るのにはいろいろな経緯がありました。その経緯の中でも、1つにはやはり退職金については、給与の減額もあるので、退職金はいただいてもよろしいのではないかというような意見もありましたし、いろいろ意見がありました。そういうことを私自身その時限立法になっているものですから、その退職金について、その背景を考えた上で提案をしたというような気持ちもありますが、議員の皆さんからのそれは違っているよと、間違っているよというような判断でもありましたから、その提案については、否決をされたという経緯はございます。そのような考え方で提案したということです。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そして、平成24年の第1回定例会で、事前に全員協議会にも何の話もなく、中央公民館建設準備事業ということで6万6,000円ですか、予算を計上しましたね。これは、私が指摘しましたけれども、少ない予算をのせればそのまま黙って通ってしまうのではないかというふうな、私はそういう気持ちがあったのかなと、指摘されて初めて町長が謝罪したような経過がございいます。新規事業であれば当然所管に、常任委員会にちゃんと提案され、そして全員協議会で諮られ、そして議会に上程をして賛否を問うというのが本来のあり方です。協働の町づくり、町長が立候補して当初から言っていますけれども、議会議員は町民の代表です。議会と執行側がお互いに政策をぶつけ合いながら1つのいい方向性に導くのが町長としての私は役目だと思いますが、議会には事前に提案されるということは少ないですね。ないに等しい。予算が可決される前の全員協議会で初めて出され、そして何でもいからこれを議決してくれと、町長はそういう姿勢の中で予算執行を今までしてきているではないですか。それが協働の町づくりなのか、協働、協働、協働、そういうふうに口々にあなたは言いますが、決して協働の町づくりにはなっていないでしょう。それについて、今後のこともあるのですから、よく考えた中で、心改めて、1回前の全員協議会でもいいですよ、提案してみんなの考え、どんなふう考えているのだろう、議会はと。そういうことを事前にやれば、おのずと1つの方向性が見えてくるし、お互いに歩み寄って1つの方向性を出せば、もっとより強い執行体制が組めると思うのですけれども。私はそういうことからすれば、もう少し反省に立って、今までいろんなこと言いましたけれども、私はあえてさらっと受け流しま

した。反論は幾らでもできますよ、町長が言ったことに対して。でも、過去のことをほじくり返したって何一つ町民のためにはならないです。今まで私のことを何でも反対していると、そういうふうに町民の中からそういう話が随分出ているらしいですけども、私1人で議会が何も変わるものではないのです。賛成多数で可決されているのです。私は、提案者には幾つもなっています。動議も出しました。それも自分の気持ちから議員の皆さんに訴えて、私が言っていることが正しいと思うから趣旨説明をし、質疑を受け、諮っていただいて、それで今まで来ているのです。私は、少しでもよくなればいいということを念頭に置きながら誠実に訴えてきた、そういうふうに思っています。過去の議員の先輩の方々がここにいれば、25年度の予算は通らないかもしれないですよ。なぜ基金を取り崩したのだと、その一つを考えたって、また議会で予算、その当時のメンバーがいれば通らなかったかもしれないです。賛成、反対、最終的にはそれで議決されるわけですから、それには従わざるを得ないですけども、私は自分の考えというのを決して出さないわけにはいかない。町民のことを思って私も代弁しているわけですから、そういうことからすれば、町長が公約に掲げて中央公民館をつくるのだということに当選してきたのだったら、胸を張って私はこれを任期中になし遂げるのだと、そういう姿勢を見せればいいではないですか。こそこそ、こそこそ少ない予算でしらばっく出て出して上程させて、議会を通ったからみんな賛成してくれたのだと、そういう対応の仕方は、私は一番最低な行いだと思います。そのことについてどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のほうから事前に説明をし、そして十分な理解をいただいた上で提案すべきでないかということについては、そういう部分が大変欠けていたということがありましたので、大変ご迷惑をおかけしているわけでもあります。今後はそういったことを踏まえて、できるだけ詳細にわたって議員の皆さん方にお示しをした中にご理解をいただくように考えていきたいというふうに思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 もう一つ、給食センター跡地の売り払いについて、全員協議会の中では私は今売らないほうがいいということで反対意見言いました。最終的には町長は、何が何でも売るのだということで、町の広報誌で一般公募した中で入札したわけですけども、実際には入札者がいなかったと、そういう経緯がありますね。これ1つでも簡単に、いなかったからそのままいいのかということについては、私はいささか執行部の考え方が甘過ぎるのではないかと。当然のことでしょう。それをあたかも何もなかったかのようにやるということ自体が、私は大間違いだと思いますよ。あの通りができて、線引きというか既存宅地制度がなくなって、これからは工場とか倉庫とか、そういうものは線引き以前に立っていたところしかできないのです。だから、私もそのときにも言

いましたけれども、そういう部分では準工業地域ですから、ここは何でもできるのですね。通りがきちんと開通してからでも有効利用できるのではないかと、話の中の一端では、草退治が容易ではないから早く売るといふような話がちらっと入ってきたのですけれども、それはどこから出たのかわかりませんが、そういう中で対応でね、この土地を売ってでは何をするのだと言ったら、何も使う目的がなくて、ただ売るといふ話でしたよね。それも、これを売ってそのお金を有効にこういうものに使うから売却するのだということであれば、私は説得力があるのではないかなと思うのですけれども、ただ売ると。しかも、この値段一つとっても、それは不動産鑑定士の方が査定をして金額を決めたのかもしれませんが、実勢価格は本当はもっと安いですよ。公共事業で不動産鑑定をして、それで役所が買い取るというふうな立場の中では、高いほうがいいのですから、鑑定してもらって、高い金額で買ってもらえれば町民は助かりますよ。でも、それを買って、それを有効利用しようという方々がすれば、そんな高いのは買えないよと。だから、私はこれ不動産鑑定して、その金額をそのまま出したのか、町長が歩切りをした中で最低売却価格を決めたのか、そこについては、どのような経過の中でその最低売却価格を決めたのか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 不動産鑑定を参考にして私自身が決定したということです。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そうすると、歩切りはしなかったのですね。どうですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この予定価格については、事業を組むときもそうなのですけれども、その決定する価格については、明らかにしておりませんので、同じような考え方に立ってその歩切りをした、しないということについては、控えさせていただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長、それはおかしいですよ。あなたは100%情報公開と言っている、私は何%切ったとかは聞かないですよ。不動産鑑定士の方が決めた金額をそのまま出したのか、歩切りをしたのか、そこだけです、聞きたいのは。というのは、例えば公共事業で設計価格が出たときに、入札するときには歩切りをして、それで最低売却価格って決めているのではないのですか。そういうことからすれば、安目に入れておいても入札される方が何人もいれば、当然引き上がるわけですよ。結局同じことではないですか、公共事業の入札価格、最低売却価格、最低の落札価格を決めるのと、意味は。だから、それやったのかやらないのか、そのところをお聞きします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどもちょっとお答えをいたしました。工事請負の入札の問題、それから売り払いする問題も同様な手法をとっていかなければなりませんので、歩切りをしたくないということについては、長に任せられた権限でもありますので、答えを控えさせていただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 おかしいでしょう。自分で議員のときには町長にさんざん聞いていましたよね、何%歩切りしたとかという話を。自分がその立場になったら、情報公開100%って、私は何%したかなんて聞かないですよ。したかしたかなかったかということだけですよ。言わないということはしなかったのでしょうか。不動産鑑定士が出してくれた金額で出したということでしょうか。それだとすれば高いのですよね、実勢価格からすれば大変高いのですよ。だから、誰も入れなかったのではないですか、結果的には。それだって誰が責任とるのですか、一般競争入札で出しておいて。またしらばっくれてしまうのですか。そんな姿勢でやっていたら、では出してだめなら取り下げればいいや。では、みんなの顔色見て、みんなが黙っていればではこれやろう、同じことではないですか。こそこそ、こそこそ陰でやるみたいで。そういうことをやっていたのでは、今後あなたが町長をやっている、いろんな事業執行やっているけれども、町長としての貫禄が全然ないですよ。そういうふうにはしか見られないですよ。みんなやりながら墓穴掘っているではないですか。公共施設の耐震診断のときもそうですよ。一部しかやらないような話だったので、議会で可決されて、全部やりなさいということになったではないですか。公民館だって武道館だっていろいろやりましたけれども、当初は1カ所しかやらないような話で出てきたわけではないですか。

中央公民館構想というのは、私が青年団のころからあったのです。公民館行っているときから。そのころは景気もよかったし、公民館としてのホールだったら無料で使えるからということでの位置づけの中でずっとやってきたのです。当初の署名運動は、私もその中へ入ってやりましたから、その当時はいろんなところでそういう施設をつくっていましたよね。でも今これから15億円、16億円の予算をとって中央公民館をつくらうとしている。邑楽町の鶉土地区画整理、平成17年から始めてやっと、その公民館をつくる予算と同じ金額をやっと費やしたのです。公民館は1回で基金の取り崩しと借金でやると町長は言っていますけれども、鶉の土地区画整理においては、平成17年から今25年になるのですね。予算をもっととってください、とってください、ずっと言っていますけれども、なかなか予算がふえない。ましてや建物が密集しているところに道路をつけたり、そういうふうになってきていますから、幾らか予算をふやしても、建物2軒か3軒、補償費を出せばもう予算がないのですよ。町長の公約ではないから力入れないのかな、そういうふうにも思えるのです。でもこれは、先人たちが鶉を都市計画決定をして区画整理をやるのだということですからずっとここまで来ているのです。それが15億円から16億円です、今。平成17年から今までかかって費やした金額が。総額ですよ。それを町長は、公約に掲げたからということで中央公民館をつくと。財源はと言ったら、基金の取り崩しと借金でやるのだと。議会からだって出ているではないですか、基金の積み

立てて。例えば、住宅をつくるたって2割、3割手持ち持っていないければ借り入れできないですよ、一般の人たちだったら。あなたがお金出すのではないから、何でも自分の公約でごり押しするような、そういう対応をとろうとしていますけれども、本当に大変ですよ。そういうことを踏まえたら、着実に一步一步進めていくのだったら、私は、中央公民館建設基金とちゃんと銘打って積み立てていけばいいではないですか。それは公共施設等整備基金とかあるかもしれないけれども、目的を掲げてやるのだったら、議会でもそういうふうに皆さんが意見を出しているのだったら、それこそ協働の町づくり、みんながそういうふうにするのなら私も胸張って、では皆さん協力してくださいとやれば何にもないでしょう。うまくいきますよ。それ積み立てて2億円でも3億円でも、こうなったからでは設計してもらおうとか、当初予算をとらないで途中で補正予算を出して認めてくれって、きのうの話にもありましたけれども、そんな大きな事業をやるのにこそこそ、こそそやるような対応のとり方でやっていたのでは、町長としての威厳なんてないでしょう。胸張ってみんなで1つになってやるのでしょうか、協働の町づくりというのは。そうではないのですか。協働、協働って口だけですよ、言っているのは。1つになっていないでしょう、たまには議会の意見も謙虚に聞いて、1つの方向性を、あなたが先頭に立って一緒に向かうような方向をとれなかったら、絶対まとまるはずはないでしょう、そんな15億円、16億円のお金。では、町長はこういうふうに言っているけれども、本当に中央公民館が必要なかどうか、町民にピラ入れて訴えたらどんな結果が出るか、本来ならアンケートとってというふうな意見もありますよ。今それをつくるべきかつからないほうがいいのかということも、それはないよりあったほうがいいのかというのは、みんな思っていますよ。ですが、それだけのお金を費やして、財政難のときに、本当にそれが町民にとっていいのか悪いのか、町長はほかにあって呂楽町にないからというふうな言い逃れをしたこともありますよね。でも本当にそれが町民のためになることなのか、私はよく踏まえた中でやっていくべきだし、ましてやそういう大事業であれば、少しずつ基金を積み立てても、この庁舎をつくる時もそうですよ。26億円からの基金があったからこそ借金しないでできたのでしょうか。やっぱり私は、1つの方策として、では基金を積み立てて、もう少したまったらやろうとか、目標を掲げてやればいいではないですか。それを基金の取り崩しと借金でやる、そんなのがまかり通るようでは本当に大変ですよ。自分のお金ではないからそんなこと言えるのですよ。自分のお金だったら、あなたは絶対使わないでしょう。私はそう思いますよ。もう少し町民のことを思うのであれば、もっと節税をしてきちんとした対応の中で、私は中央公民館についてもやっていくべきだと思いますけれども、今のお考えを聞かせていただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 特に中央公民館の建設について、現在の気持ちをということでもありますけれども、これは、昨日の議員の質問にもお答えをしたかと思っておりますけれども、今本間議員が言われますよう

に、この事業というのは大変以前から、昭和62年の邑楽町の第三次総合計画の中に位置づけられていたということがあります。まさに本間議員が青年団のときにこの公民館を建設したいというような思いが、この中にも当然入っているのだろうというふうに思っております。そういうことではありませんけれども、いろいろ先送りしてきたというのは、この地震の災害に備えるべく学校教育施設等の耐震診断をし、補強工事をやってきた等、もろもろのその課題があって、それを実行してきたということで今日に至っているわけですが、そういうことを考えると、私は時期が早過ぎる、時期尚早ということにはならないのではないかとこのように思います。やはりこの施設を整備することは、本間議員も十分ご承知だと思っておりますけれども、学術、文化、芸術ということの利用する施設ということになりますので、それが即その多額の税を、資金を投入をして成果が上がることではないかもしれませんが、将来的にやはり見据えていくということも、これは必要ではないかというふうに思っておりますし、ある議員のお話ですと、やはり教育は大事だと。教育をやはり大事にしていくべきではないか、人づくりだよということをお聞きした議員からのお話も聞いたことがあります。そういうことを考えたときに、大変多額な資金ということになりますけれども、私は平時の行政需要をマイナスにすることや町民の皆さんへのサービスを低下させるということがないような資金計画ということも十分今後考えていくということでもあります。今、昨日も公民館の検討委員会が開催されたようでありますけれども、今後その議論が、検討内容が十分煮詰まってくるということになれば、昨日も申し上げましたけれども、いずれ議員の皆さん方にお示しをして、理解をいただく機会も早い時期に持ちたいということをお答えさせていただきました。そのような考え方でおりますので、これから議会の皆さんとのコンセンサスが不足しているということについては十分反省をして、先ほども申し上げましたけれども、事に当たっていきたいというふうに思います。私自身のことで考えているつもりはありません。町民の皆さんのことをお互いに考えて行政執行をしていくということで、今後は今までに増して慎重に対応して考えていくということを申し上げたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長がそういうかたくなな考えでいるのであれば、私にも考えがあります。そしてまた、今いろんなことを私言ってきましたけれども、あなたは、何か質問すると最初はなびきそうなだけけれども、必ずその後、でもしかしとかと言って打ち消すのですよ。謙虚さが1つもない。多分聞いてみてください、全員協議会でも。議員の方々は、例えばこの中央公民館について、それはないよりあったほうがいいのかと当たり前ですよ。それは、口実つければ、それは施設があればさらにそれは文化の程度が上がるとか、それを利用することによってもっと資質が上がるとか、そんなの言うのは当たり前ですよ。でも、それはお金をかけただけの成果があるかどうかかわからないです。それはそれを利用してくれた人が充実感が出てくるでしょう。でも、ではそれでは1億円ちょっとでできる学校のプールを先送りした中で、自分の思っていることだけ先に進める。幾ら何

だったって私は、基金の1億円ぐらい取り崩しても学校のプールを先につくればいいのですよ。それがあなたの手腕でしょうが。平等な目で町民全体を見据えた中で、いいですか、子供たちは戻れないでしょう、今ある施設を利用しているのですよ。統合のことだってそうですよ、平成25年度になったら、委員会をつくって進めると前の教育長が言ったでしょう、8年もかかるって、桐生市のほうは。そういう姿勢の中で行政執行がされたのなら、その間にいる子供たちは置き去りにされているのですよ。遅滞なく、子供たちの、今いる子供たちのことを思って行政執行に当たるのが執行側の務めではないですか。それも一般質問をされた方の答弁で、2年後につくりますと言ったのはあなたでしょうが。何でそんな簡単にそういう意見を出すのですか。執行側全体で協働の町づくりをつくるのであれば、みんなの意思統一をきちとした中で議会にも諮っていただかなくてはならないでしょう。全然議員の方々が一般質問すると、そのときに初めて町長の口から新しいことが出てくる。そういう執行のあり方ではすばらしい町づくりなんてできないですよ。事前に、私はこう考えているけれども議会としてどう思いますか。議長を通じてでもいいですよ、ちゃんと議会に進言をして、その中で町1つとなって集約した中で事業をやっていくのがあなたの立場でしょう。あなた一人で考えてあなた一人で町を動かしているのだ、最終的には自分の選挙運動でしかないのですよ。自分が管理者の責任、責任者でありながらそういう施設を使って1,000円会費で飲んだり食ったりさせたり、みんなそういうのだったって立場を利用した、越権行為ではないですか、逆を言えば。時間外に施設をあけさせて、そういうことだってやっているでしょう。よく振り返って、自分の周りをきちんと私は身辺整理するべきだと思います。必ずまた第2、第3の、また同じ過ちを繰り返しますよ、今まで何回やっていますか。悔い改めてやるのであれば、議員の皆さんは町民の代表ですよ。あなたも町民の代表かもしれないけれども、あなた一人でやるのは間違いからここに議員の皆さんがいるのでしょ。その人たちにちゃんとした説明をしないで、予算の多数決で1票差でも通れば通そうと、そういうふうな姿勢の中で行政執行が行われるのであれば、決して私はいい方向には進まないと思います。どうですか、私が言っていることは間違っていますか、答弁をお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今までお答えしたことをもとに、議員の皆さんに相談をさせていただいて進めていきたいというふうに思いますので、これからもよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長として、時にはリーダーシップをとることも必要です。時にはみんなの下に下がってみんなの考えを聞くことも必要です。1人でやれば間違えますよ。あなたに対して意見を言う人は、町民のことを思って言うのですよね。それがあなたには謙虚に聞けないところがあ

ります。だから間違うのです。

葬儀のときに後援会で金子正一後援会、成果を出しました。これも選挙違反ですよ、完全な。でも、そのときには総務課長が事務局やっていますから、後援会の会長に指導して、警察に行ってその旨を伝えてそのときは終わってしまったのですね。選挙管理委員会から送られる公職選挙法のピラの中には、花輪を出したりしたらそれは完全な選挙違反ですよと、リーフレットにもうたってありますよ。それでもうやむやにして、あなたがそこへ座っているではないですか。何か言えば後援会のほうに話しますと。本来後援会と連座制ではないですか。そういうことが後から後から出てくるのであれば、町民だったって不信感しか湧かないですよ。いろんなことがありますよ。

例えば、教育委員、町の施設を今借りてやっていますよね。どこと言うと当たりさわりがあるから名前出しませんけれども、それだって役職上とそれからそこには補助金なり、多分町からも出ているのだと思うのです、よく調べれば。この間の議員研修会にもそういう講習がありました。本来町から補助金もらっている人が町の行政に何かつかさどるということは、本来はあってはならないと。議員の皆さんが、例えば町から仕事をもらってやるようなことがあれば、それは議員を即座にやめなくてはならないとか、そういうふうな講習を受けたのですけれども、そういうことから鑑みると、それに近い扱いをしている部分もあるのです。それは、執行側がきちんと見直すべきだと思うのです。私は誰とは言いませんけれども、そういうのをきちんとやるべきです。ですから、前に言いましたよね、福祉センターを使って町長が一番執行権の行使する最高責任者になっているのですから、自分の後援会をそういうところでやるのはいかがなものかと言いましたら、町長は後援会のほうに話すというふうな話でしたけれども、やはり疑われることはやらないほうがいいです。まして県の選挙管理委員会に届け出しているのは、インターネットで見れば誰でも見られます。会費が幾らで使った金額が幾らで、全部出ていますよ。そうすると、あなたはいつも選挙運動しかしていない。だから、かたくなに中央公民館つくるつくる、一生懸命応援している人がいますからね。そういう中で、いい行政が私は執行されると思わないです。偏った見方していますもの。町全体のことを考えて、本当にその中央公民館、今つくるべきかどうか、それも私は見据えた中で考えていかないと今度はあなたの命取りになりますよ。本当に今必要なのは何なのだろう。一番上に立って冷静な目で見、優先順位をつけるのがあなたの役目ですよ。

私は、そういう部分では今いる子供たちが利用しづらいのであれば、基金を取り崩してすぐにプールをつくりますと町長が言えば、議員の皆さん誰もが子供たちのためならということで、反対する人いないと思います。だけれども、先送り先送りしている、そういうのは。でも、中央公民館を早くつくるということで、どさくさに紛れて6万幾らの予算をとって、質問されなければそのまま通してしまうつもりだったのでしょう。そういう執行体制をやっていたのでは、信頼関係なんて生まれえないし、協働の町づくりなんてできはしないですよ。それを改めるのは、町長みずから自分の考えを白紙に戻して、全体を見渡した中で何を今やるべきなのか、よく考えた上で私は方向を示して

いただきたいと思いますが、もう時間が少なくなりましたけれども、町長に今まで聞いたことについては、私はさっと触れたつもりです。そういうことをまた繰り返してほしくないからあえて言いました。

本当は、前の話は前段でしなくても、これからの話をすればいいのかなというふうに私は思いますけれども、同じ過ちを何度も何度も繰り返してやっていったのでは、信頼関係なんて生まれません。町長が腹を割って議会に事前に提案をし、その中で1つの方向性を一体となって出していけば、何にも怖いことはないではないですか。それをごり押しして、予算執行の前の寸前で説明をして、議会通してくれればいいのだよ、そういう執行体制のあり方では、私はいい行政運営はできないというふうに思いますけれども、町長は今後の執行体制について、どういうふうに考えてこれからやっていくのか、最後にお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 事業を行うということは、計画があるわけでもあります。その計画に基づいて事業を進めていくことになりますので、その点については、先ほども申し上げましたけれども、議員の皆さんにご相談し、そして事業を進めていきたいというふうに思っておりますので、これからもひとつよろしくご指導をいただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 この中央公民館、特に町長は肩入れをして、何が何でもやりたいのだというふうな態度でいますから、町長がみずから先頭に立って責任を持った中で執行されるのだと思います。議会の中でいろんな意見が出ていますけれども、1つも聞く耳を持たない、基金の積み立てをしたほうがいいのではないかとか、いろんな意見が出ていますけれども、決してそれに耳を傾けようとならないあなたの姿勢については、私は情けなく思います。やれるところまでやって進めればいいのではないですか。何にも議会の意見については耳をかさない、そういう体制づくりの中で執行されるのであれば、どんどん、どんどん、第2、第3のいろんな過ちをまたあなたやっていきますよ。何人も出ているでしょう、基金の積み立てたほうがいいという意見は。別にたとえ幾らでも積み立てていけばいいのではないですか。何かそれに対してうまくないことがあるのですか。私はそれがわからない。

終わります。

○立沢稔夫議長 暫時休憩します。

〔午後 零時13分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時10分 再開〕

◇ 小 島 幸 典 議 員

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 皆さん、こんにちは。12番、小島幸典です。議員の責務により組織を持たない声なき声の町民の代弁者として、通告どおり一般質問をいたします。

東日本大震災からきのうで丸2年となり、死者は1万5,881人、行方不明者は今も2,668人に上がり、避難生活者は31万5,906人と2月7日現在として11日の新聞は報じています。昨年3月議会で岩手県大槌町の災害瓦れき受け入れ問題で町長と私での政策論争。昨年の6月26日です。細野環境大臣が大震災の災害廃棄物の広域処理について、受け入れ先に見通しがついたらと発言したことで、大泉町外二町環境衛生施設組合は受け入れは取りやめ、6月29日、震災地との絆はただの藻くずとなったわけであります。本当に私は残念に思えてなりません。ということは、子供たちの絶好の教育の材料だったと私は思うからであります。悔いを後世に残すことであつたかなと。今でも悔やんでいるのは私だけでしょうか。残念に思えてなりません。そういうことは、古人いわく、情けは人のためならずという故事があります。これは、人間生きている限りやはり人に優しくする、そういう生き方がここでまた問われていると私は思っています。

そんな中、町の財政を考えますと、平成22年末には91億8,990万4,711円あります。また、平成23年末だと93億4,001万8,908円あります。町の人口2万7,188人で割りますと1人当たり34万3,535円あります。夕張市の経済破綻から3年で4年になります。これも新聞の片隅に報道されています。また、邑楽町の経済を困窮させては我々議員の責務に反するものかと私は思います。そんな町の将来を考えた場合、箱物を大金をかけてつくることより基金を財源にする公助と、隣近所で支え合う共助の仕組みが必要ではないのかと。NPO法人や各町にある社会福祉協議会を中心にして、将来の高齢化社会に備えることと若者の就業、雇用の窓口を広げることと、人に優しい人間関係をつくるために自分を助けることができる、生活することができる、資格を取得する支援をすることで居宅介護が進み、高齢者ひとり暮らしの支援ができるのであれば、若者の職場も広がることを応援し、資格試験の公的支援を提案するものであります。

1つとして、若い人の働く場所ができれば生活も安定し、若い人の人口もふえると確信します。約20年後には3人に1人が高齢者になると言われている。こういう社会状況の中、施設をつくと建設のランニングコストがかかり、介護の費用も高くなり、サービスや賃金の低下が心配です。例えば、こういう資格を得るのに、まさかっちゃん奨学資金等をつくったとすれば、これは後世にいつまでも名が残り、また第2、第3のすばらしいまさかっちゃんが生まれてくるのではないかなと。若い人が育てば、当然いいことはまねすると思います。そういうことを踏まえて、私はあえて町長に、現在の邑楽町でヘルパーの資格を取る人たちの支援をどうしたら拡大していけるか、その辺町

長の得意の、とにかく即決で応援できる、そういう気持ちがあるかどうか、所管でありますので、町長にお聞きします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ホームヘルパーの資格取得について、町のほうでその支援を考えてはどうかというふうなお尋ねですが、現在平成14年からこのヘルパーの資格については社会福祉協議会等で、これは大泉町、邑楽町、千代田町、3町でやっているわけでありましてけれども、その資格を取得する希望受験者については、既にそのような方策をとっており、邑楽町では平成14年から11年間で103名の方が資格を取得した。ホームヘルパー2級の資格ということになりますけれども、そのような報告を受けておりますので、そういう点では、高齢化社会に対応した資格取得者の養成というのは、現在も行われているというふうを考えております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 平成14年から平成24年まで、これは町長、何年たっていると思いますか。11年ですよ。11年で103人の資格者を育てた。町長、多いですか少ないですか、ちょっとその辺を忌憚なく自分の心に問うて、ちょっとお聞かせ願いたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 多い少ないということは、その受験をする希望者に関係するわけですので、資格取得希望者がなければ、結果として資格取得者は少ないということになりますから、多いか少ないかということであれば、これは私のほうから、特に議員がどのような判断をされているかわかりませんが、まず希望される方がこれだけいるということは、年10人ほどの取得ということになりますから、私は希望者がそれなりに応募して資格を取得しているというふうに思っておりますので、特に多い少ないということについては、議員の判断にお任せしたいと思います。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私は町長に聞いたので、私の判断に任せると言ったら、これはやっぱり私の質問に答えていないのではないかなと思うのです。なぜかといいますと、千葉県市川市は、人口も違いますけれども、1年に100人のヘルパーを生み出しているのです、養成しているのです。邑楽町の2万7,000人の人口からして、1年に10人ぐらいの資格者を養成していたのでは、先ほど枕言葉に話しましたがけれども、あと20年後には3人に1人が60歳以上のそういう介護が望まれるような社会になってくるわけですよ。だから、そういうことを考えた場合、町長、この資格の試験というのはいつあるのですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 年1回の試験がありまして、その実施時期については、把握していないので、時期等の必要があれば後ほどお答えをさせていただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 年1回ということなのですからけれども、これは町のそういう広報と、または先ほども話されましたけれども、町長の熱意があれば、これは幾らでも担当の社協等を通して、社協に私たちはお願いして、ちゃんと経費も何も全部出しているわけですよ。援助しているわけですよ。その中で町長、年間10人では少ないのではないですかと、そういうことを考えれば資格試験、これをもっと宣伝して、大学生の夏休みの間、また小学生を育てているお母さんたちとか、そういう学校の夏休み、冬休みを利用して、そういう講習が受けられるか受けられないかとか、その辺の夢がなければ20年後の呂楽町の福祉行政が成り立っていかないですよ。確かに任せておけば楽です。だけれども、町長が最高の権力者であるし、提案もできるし、検討委員会だってできるわけですから、そういうのを今のうちから手がけてやっていくことで雇用が生まれ、また隣近所のそういう資格のある人がお年寄りのコミュニティーの中に入ることによって、楽しい生活が継続してできると思うのです。その辺の今私が話した組織づくりをどう思うか、お答え願いたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この資格取得については、今大学の話もありましたけれども、それぞれの学校で、福祉学校においては、そういった資格を取得できるような養成もあるようでもあります。先ほど申し上げた11年間で103人という数字は、いわゆるそういった方以外の受験者であり取得者というふうに思います。組織をどうするかということについては、当然これからの高齢化社会を含めて考えていけば、学校においても、あるいは地域においても、そういった要請が必ず来るであろうし、それに備えて既に社会福祉協議会のほうでそのような体制づくりをしているということでもあります。不足だということになれば、そういった組織づくりというのもやはり必要になってくるだろうというふうに思っておりますので、十分内容を検討させていただいて、そのような状況があるようでしたら組織づくりに向けて社会福祉協議会のほうにもお願いをしていきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 組織づくりとか、そういう1つのプロセスをつくるにはタイミングと、また必ず資金が必要なのですよ。そういう流れの中で、受験料が個人負担2万円ぐらいかかると思うのですけれども、その辺全額で幾らぐらいかかるのですか、町長。学校ではないですよ、これは。社会人が今大泉町の社会福祉協議会、呂楽町の社会福祉協議会、千代田町の社会福祉協議会と、3町で人間が集まったときにそういう出前講座というのかな、そういう2級ヘルパーとか、そういう資格をとるのに、やはりもっといろいろと町が力を添えてとってもらおう。そういうことで、とりあえず個人負担が幾らぐらいか。先ほど話したように1年間10人ならば、例えば2万円かかっても20万

円ですよ。そのぐらいの町の助成金というか、そういう流れの中では、町長、これは早急にぜひ受験の拡大をしていかないと、後でまたその辺の、ではなぜそれが必要かということを私話しますけれども、町長、まずは個人負担金幾らで総額幾らかかるかと、この辺自分の頭の中でちょっと計算して回答願いたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどお答えした中で、試験という言い方をいたしました、講習会ということで訂正をさせていただきたいと思います。

それから、全体の講習料がどれくらいかかるかということなのですが、ちょっと申しわけありません。平成15年からは個人負担が3万円ということになっているようでありますが、この金額が全て講習料に値するのか、それ以上の金額であるのかというのは、ちょっと勉強不足で申しわけありません。把握しておりませんので、後ほど回答させていただきます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 これは町長なぜ大事かといいますと、知ってのとおり町長の認可で今年の4月からやまつつじが20人増設かな、それとつむぎの里が9人のグループホームの増設、それとヴィラがやっぱり9人の増設と、町長が許可してくれたおかげでできました。本当にありがとうございます。ですが、あっという間に4月開園と一緒にみんなどこも満床なのです。そうすると、何が起きるかという、待機する人たちがいっぱい出てきて、それでこれは後からまた話をするのですけれども、若い人がとにかく今就職難です。うちで家族を見られる余裕は、本当にないのではないのかなという流れの中で、この介護保険もどんどん、どんどん使われる、そういう流れの中で要支援、要するに介護保険の入居者の場合は、要介護5までのランクがありまして、それで個人負担が1割なのです。そういうことを考えた場合、やはりこれからは、公助、共助、自助、自分を守らなければならない在宅介護、これが重要になってくるのではないかなと。我々議員も研修にあちこち行きましたが、千葉県市原市ではそういう資格取得者を組織的に頼んで、24時間休みなく電話があればすぐ駆けつけていけるよと、そういう組織まで学んできたわけですよ。先ほど話した、町長のおかげで増設した福祉施設があっという間にいっぱいになってしまうわけですよ。子供はもう遠くへ今就職云々、場合によっては外国まで仕事行っているから、自分の親の面倒を見られないのですよ。であれば、やっぱり隣近所の温かい交友関係とか人間関係でお互いに助け合う、それを助けるのには、やはり行政が肩をたたいたり、お尻たたいたりして、みんなでいい町をつくりましょうよと、そういう福祉の指導が町長、または議員の仕事だと思うのです。そういうことを考えれば町長、1人3万円かかろうが4万円かかろうが、奨学金でいいのです。働いたら1,000円ずつでもいいからバックして頂戴よと。そうすると働けるし、お金が回転するのですよ。隣の家に行ったからってボランティアではなくたっていいのですよ。社協を通して1日に2回、3回顔を出して、お買い物手

伝ったり、それを先駆けてやっていかないと、さあ泥縄では、資格がなければよその人の面倒は見られません。家族なら大丈夫ですよ。私のうちも家族だったから6年4カ月も嫁がおやじの面倒を見ましたけれども、資格がなくても家族なら大丈夫なのです。その辺の福祉の先を見据えた、そういう共助、お互いに助け合う、その辺のアプローチを町長、ちゃんと社会福祉協議会と、また3町とであれば3町だっていいですよ。組織でやることは大事ではないのですか、町長の今のお考えをお尋ねしたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどもお答えをいたしましたけれども、その必要性といたしますか、その講習会を希望する方が多くて開催数も少ない、あるいはその取得者の便宜を図るということを考えれば、社会福祉協議会のほうにそういった要請は十分可能ですので、状況を把握する中で社会福祉協議会のほうにもつなげていきたいと思えます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長から、余り歯切れがよくなかったけれども、前へ進むというような、今は感触受けたのですけれども、とにかく若い人が今就職難なのです、新聞報道でもあるように、15回、20回就職試験受けても通らないよと。それで精神病になって、年間に大学卒業生が150人以上死んでいますよと、新聞に出ているわけですよ。絶望してしまうのです。そういうことを踏まえれば、やっぱり資格をどんどん、どんどんとって、それで自信をつけてもらう。よその町へ行って働いてもいいのですよ。人と人とのつながりができる中で若い人というのはすごい吸収力がありますから。それでまた自分の専門職に邁進してもまたそれでいいと。だから、それが人を育てる力なのです。町長、それはできますよ、権力者なのです。我々提案したってみんなが同調してくれなければだめなのですけれども、町長はとにかく、要はお金を出すかめを持っているのですから。だから、ぜひまさかちゃん基金でも何でもいいけれども、とにかくそういうアドバルーンを上げて、とにかく福祉のほうのそういう力をもっともっと種まきをしてもらいたい。私はああいうのを種まきと言うのですけれども、まいたからといって全部の種が育つわけではないけれども、でも1,000人、2,000人育つ中で我々が、町長も同級生だから、我々先に死んでしまっても、あと20年後、30年後、そういうまいた種からきれいに花が咲く、そういう夢を見てお金を使うことが大事だと思うのです。

ここに1つのデータがあるのですけれども、在宅介護者のこれは平成20年ですから、もっと今ふえていると思うのですけれども、介護サービス利用者が734人もいますよね。在宅サービスの利用者がその中の523人もいるのです。施設サービス利用者が137人とか、これもお金がかかるのですよね。要支援の1だと4万9,700円ですよ、1割ですよ。それで、要介護5だと35万8,300円もかかるわけですよ、動けない人ですよ。こういう本当に弱者、要するにもう年取って周りが面倒見られ

ないということで施設に入ってしまうのですけれども、1つの例を挙げると、渋川市で例の火災の事故なんかありましたよね。東京都のお年寄りが入っていましたよね。こういうことを考えた場合、呂楽町の人によさということを考えれば、やはり社会福祉協議会なりNPO法人が中心になって、それで近くの方は近くへ行ってくださいよと。もちろん無料ではなくて、1時間幾らとか今もらっていますよね。ある家では1日3回、朝昼夜と、太田市から来ていましたよ、そういうこれからは産業というか人を育てるというか、ただもう箱物をつくれればいいやではなくて、回転させる、人間の心も回転させる、お金も当然回転させる。それで初めて自立した町になっていくと私は思うのです。その辺の町長、俺が先頭になってそういう組織の旗振りするのだと、そういう意気込みありますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のご意見、将来を見据えたすばらしい提案だというふうに受けとめました。その状況というのは、ますます高齢化社会を、迎えるわけでもありますので、時に応じてそのような判断もしていく必要はあるだろうというふうに思っております。十分研究をさせていただきたいと思えます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 急に私がこういうふうに前向きな提案をしたからって、はいわかったよというわけにはいかないかもしれません。だけれども、誰かがこういう発信をしないと、みんな今までの社会福祉協議会、または各町の中の介護施設にお任せだけで済んでしまうと、全然進歩がないですよ。だから、そういうことを考えれば、これからは私はどんどん発言していきますけれども、ぜひ権力者である町長、また福祉のとにかく私はプロと思っているのですけれども、やっぱり副町長、それとそれに協力してくれる各課長が、こういう事例があるよとか、こういうことを見てきたよとか、所管ではなくても課長会でどんどんそういうお互いに切磋琢磨というのですか、プロではなくてもいい経験、いい能力というのがあると思うのです。そういうことをみんなが結集して、とにかく老後を住みやすく、または若い人が張り合いを持てる職場をぜひつくってもらいたいと思えます。

そういう流れの中で第2問に入りますけれども、第2問は、中央公民館建設計画の見直しということで提案させてもらっていますけれども、これは先ほど何人かの議員が話をされて、耳にたこがでなくても、ちょっとしもやけぐらいできているのかなと思うのですけれども。中央公民館建設計画の見直しをということなので、これは先ほども日本の今のそういう経済状態にもちょっと触れましたけれども、現在の日本経済と町の経済状態を見ると、財政改革は恐らくどこの町でもそうですけれども、行政の柱なのです。平成23年11月臨時会で職員給与平均0.07%の削減を町長は提案し、これが成立しました。また、平成24年3月議会で議員2人削減案を可決し、年間約900万円の人件費削減を見込み、平成19年の4人削減と合わせ計6人の削減で、年間総額2,700万円の税金の

節約が実施されています。昨今ではこれ私何回も町長にも話していますけれども、名古屋市長が現行俸給の割合を約68%削減を出し、大阪市長は約30%削減を出して通しています。隣町の千代田町でも俸給30%削減を、これは執行部から5年か6年前に何回もこれ私も話したと思いますけれども、削減をしています。それを議会に提案したと。本町でも議員発議であっても、現金子町長、前の教育長のご理解のもと50%削減を、賞与は現行のままでしたけれども、これは期限は平成24年の3月まで、これを議員発議、私の提案で出しました。これは、私はやはり町長は前の町長のときに、思い出してくださいよ、合併しないと3年で町が潰れるってチラシを出しています。3年で潰れていません。ということは、そういうことを踏まえて、財政が心配だったと思うのです。そういう流れの中では、提案した私は正しかったと思います。ということは町長、現町長、また前教育長、また議員の方々ののおかげで財政力指数がよくなったことは、私はそのおかげであると思っています。ということは、町長が3年で合併しなければ3年で呂楽町は潰れるって証明しているのですから。そういうことを考えると、では自分はどうだったのだと。私は、20人から4人削減のときに私1人反対しました。ということは、私の地区は小さいです。小さい地区でも議員が選出されるということが大事ではないのかなと。それで何を私が言ったかということ、議員報酬を2分の1にすれば議員は半分にしたのと同じではないかと、そういう私は削減の反対討論をしたのですけれども、19対1で残念ながら負けました。千代田町のように、条例改正という形で提案することは、私は私の一つの政治姿勢としては、望まれることですが、でもこれは町長は自分で提案権があるのですから、今回は町長20%、副町長、教育長15%という形で出しました。ありがとうございました。

こういうことは、何が大事かということ、やはり人の上に立つ人は、自分の腹を切らなければやっぱり人は動きませんよ。動かないですよ。自分だけもっと欲しいもっと欲しいと。だから、予算の中で私は言いましたけれども、功成り名を遂げた人は、先ほどの話に戻りますけれども、本当にお金のない人が施設へ入所しているという一方なのです。今回も災害復興税とかという税金を年金生活者から取るような増税になっています。そういうことを考えると、平成23年度末の呂楽町の起債は、町長、幾らあると思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 起債残高ですが、一般会計では62億3,300万円ほど。それから、企業会計、特別会計を含めると、先ほど議員も触れられておられたようですけれども、93億4,000万円ほどの起債残高があります。この約54%、55%は、臨時財政対策債という形での借入金でありまして、国のほうではこの部分について補填をするというふうな制度になっております。なぜ補填をするかということになりますと、当然地方交付税等の交付ということでの手当てということなのでしょうが、国のほうでも財政的な運用の中でその臨時財政対策債という形で一定の額を認めていただいて、その額については、後ほど交付されるというふうなものでもあります。参考までに申し上げましたけれ

ども、一般会計、特別会計を含めて93億4,000万円ということでございます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、93億4,000万円ということは、邑楽町の人口2万7,188人で割りますと1人約34万3,000円借金があるのですよ。こういうことで、私は町長がやることみんな反対反対と言っているわけではないですよ。町長が議員時代に辞職勧告決議案を出されたときは、私も辞職勧告決議案に反対しています。それと、問責決議案を出されたときも、これも反対しています。ということは、私は議会での発言というのは、憲法第51条だったかな、保障されているわけですよ。それを町長が議会で云々ということの中でのことだったと今記憶していますけれども、3として、一昨年9月、19号線での補正予算で例の500万円の提案ですね、これも私は賛成討論をして賛成しています。それと、4年前の9月議会前に例の監査委員の不在問題、9月の決算時に監査委員がいないということなので、火中の栗を拾うごとく、知ってのとおり細谷議員が私のところに、議会議案を円滑にするためにということで監査委員を受けました。これも町長を助けるために、円滑に乗り切るために、9月にね、そういうことでとにかく監査委員を受けましたよね。そのときに、町長は、ありがとうと言ったことと、人事に口出すなよと言われました。私は、素直にはいと言いましたよ、町長室で。そういう私は何でも、あなた素直ではないな、会議録見ろよ会議録を。首かしげないでそうかと言えばいいのだよ。全く疲れるな。そういうことで、借金がこれだけあるのだよ。

それと、では町長、財政調整基金は幾らありますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 基金総額ですが、約42億6,000万円、これは平成23年度末の数値でありますけれども。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、総額で17億円から18億円だと思うのですが、財調が42億6,000万円で、総額でどのくらいあるか、もう一度教えてもらいたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどは、基金の総額を申し上げました。財政調整基金ということで申し上げますと約18億円ということでよろしいでしょうか。そのような数字です。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 ありがとうございます。そういうことを踏まえますと、借金が1人当たり34万円、それで18億円として人口3万人にしますと6万円の預金額なのです。これを町長が全員協議会で言ったのですよ。何を言ったかということ、中央公民館建設資金を財政調整基金の中から15億円ぐらい使いたい。後で修正はしていますけれども。だから、私はびっくりしてしまったのです。何で

そんなに錢があるのだと。財政調整基金というのは、やっぱり何か、天災だとか、学校が火事で焼けてしまったとか、そういうときに国とか県で補助が出ない場合に手当てをする、そういうやっぱり基金だと思うのです。そういうことを考えれば、この庁舎でもそうですよ、町長。10年も15年も積み立てて、それでできた庁舎なのです。そういうことを考えれば、町長、この血税を先ほど話したように、病院、施設で寝ているお年寄り、また働けない人が鶉の土地区画整理事業が終わった後、土地の評価額が上がった場合に国民健康保険税の負担割合、そういうことを考えれば、等しく箱物をつくるときの税金はもらうべきなのですよ、もらうのですよ、取るのではなくて。そういうことを考えれば、所得のある人からたくさんもらうとか、そういう方法をこれから考えなくてはならないと思うのですよ、町長。私も町長も、先に死んでしまうからいいのだよ、あと20年もたてば死んでしまうから。だけれども、今の高校生だとか大学生、職がないのですよ。そういう人たちからどういうふうにもらうのですか。そういうことを考えた場合には、町長、若い人たちからどういうふうに、負担割合というかな、国民健康保険税の負担割合をどういうふうにしてもらうのか、もらうのですよ、取るのではなくて。どういうふうにもらいたいと思いますか。その辺個人的でいいですから、答えてもらいたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 中央公民館の建設に向けてその金額、かかるであろう金額をどのように捻出するのかということも一部入っておりますので、まずその辺をお答えをしたいと思います。一定の目安としてということで、昨日もその金額をお示しをいたしましたけれども、もちろん一般のいわゆる住民サービスが低下しないような方策を考えつつ取り組んでいくということも申し上げました。先ほど財政調整基金が約18億円ほどありますというお答えをさせていただきました。総額で43億円ということも申し上げましたけれども、特にその内訳を申し上げますと、公共施設を整備するための基金が約7億4,000万円、それから減債基金が5億4,000万円、そして財政調整基金が約18億円等ということになっているのですが、そういった基金の利用ということも1つありましょう。財政調整基金だけの出動でなくして、公共施設整備費のこの基金の利用、取り崩しということも考えていかなければならないと思います。と申しますのは、公共施設整備基金の考え方は、その使い道が一定程度定められております特定の目的基金でありまして、その中には町のいろいろ公共施設を整備するためにその基金の取り崩しをするということが決められておりますから、そういったことを考えていけばそれも一つの取り崩しの考え方になるだろうと。また、一般財源の取り崩しということについても、やはりそういった将来にわたって町民の皆さんが利用するということを考えれば、それらの取り崩しも必要ではないか。それから、問題はその借入金の問題です。今基金は、今まで本当にご苦労されてきて、その結果としてこのような基金があるわけでもありますけれども、借入れを起すということになりますと、そのときから将来にわたって返済をするということが起きてくる

わけです。そのことを議員が心配されている、その借入金をどのように返済するかということになるわけですが、これは中央公民館だけでなく、全ての施設等にも言えることなのですから。将来にわたって利用する、将来にわたっていろいろ活動の拠点とするということで考えていけば、やはり今までのこの基金、現状の皆さんが努力をしたお金、それから借入金については、将来にわたって利用されるという方のその考え方としては、借り入れを起こして、その方々にも応分の負担をしていただくということが、私はそういった事業を起こす場合には必要ではないかというふうに思っております。

さて、それに置きかえて国民健康保険のお話もされましたけれども、これは全く性格が違うものですから、国民健康保険の中で考えていけば、やはりその負担割合というのが幾つかに決められています。平等割あるいは均等割、所得割、資産割というふうに決められておまして、その状況に応じて応分の負担をいただく、それを医療関係に使っていくということになりますので、ちょっと性格は違うものでありますが、それをどう考えるかということについては、たしかさっきの質問の中でも、いや全員協議会の中だったでしょうか、あるいは前の本会議の質問の中でもお答えしたと思います。これは国民健康保険の保険給付費の金額に合わせて国や県からの交付金を見積もり、そして国民健康保険税としてどれだけの歳入が必要かということで計画をされておまして、国民健康保険運営協議会というのがありますけれども、その中で十分議論をしていただいて、最終的に決めていただき、議会に提案して決定をしていくという運びになるわけでありまして、今のところ、今後もそうあってほしいのですが、この国民健康保険税については、その負担割合を見直しをしないというご意見はいただいておりますけれども、十分その中身を検討した上で考えていかなければならない性格のものではないかというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長からは、邑楽町公民館の建設資金と国民健康保険税とは別の懐だよというような今説明だったと思うのです。私は一緒だと思いますよ。なぜかといいますと、借りる起債というのは、等しく町民が払うのですよ。町長が払うのではないのです。町民の借金は町民が払うのですよ、税制がどうであれ。だから、私は7年も8年も積み立てた中での金額の中で運営したのがいいのではないですかということは、邑楽町公民館、町長耐震補強の後見しましたか、もし見たとすればどう感じたか、ちょっとその感じ方を教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私も現場に何度か行ってその施工状況も見てきました。今耐震補強というお話がありました。邑楽町公民館については、耐震改修工事ということではありますけれども、耐震性能の向上とアスベストの除去ということが重点的に行われたわけでもありまして、できるだけ長く使えるようなという考え方からその改修を行ったということで、特にこの躯体の部分とブロックの部

分がちょっと剥離をしているというようなことがあったようです。そのところをボルトで締め合
わせたというふうになっておりまして、したがって、耐震のための補強工事ということでなくして、
耐震の改修工事ではありますけれども、延命のために改修を行ったというふうなものでございます。
中心は、アスベスト除去が中心になるわけです。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私がなぜ今質問したかということ、確かに町長が言われたようにアスベスト、
または耐震補強、4年ぐらい前だったかな、例の音楽グループの人たちが、邑楽町公民館をちゃん
と改修してくれればあれでいいのだよと、そういうことで私一般質問しました。私は一般質問する
前に公民館を全部中庭見たり、2階の西のほう見て、震災の前にもう壁にひびが入っていたのです
よ。いずれこれは改築してきれいにすれば今度全部やらなくてはならないのかなと。町長に私はバ
リアフリーも何もないからと言ったら、町長言ったでしょう。ホールはバリアフリーやっています
と。やっていないですよ。舞台上がるにしても何にしても、車椅子の人なんか上がれませんよ。
それでこの間3,297万円もかけてちゃんと耐震補強をしたわけですよ。それでやっと耐用年数が
10年、誰か言っていましたよね。それと、ヤングプラザにしても長柄公民館にしても、あと20年も
耐用年数があるというような話をしていましたけれども、そういうことを考えると、はっきり言っ
て誰も不自由していないのですよ。ちゃんと現実に建物があってみんな使っているのですから、そ
れでいて来年度にもうつくってしまうなんて言っている町長は、やっぱりちょっと税金を自分で
施政方針演説の中で何を言っていると思います、あなたは。さっきの福祉のことでもそうですけれ
ども、自助努力、地域の助け合い、共助、公的援助、公助、これと税金を大事に使いますよと、こ
の中であなたがちゃんと言っているのですよ。それでいて耐用年数が10年ある建物、20年ある建物、
あるのになんで15億円、16億円かけて慌ててつくらなくてはならないのですか。

町長は本当に忙しいから忘れてしまうのだろうけれども、両毛広域圏でお互いに使いましょよ
と。それで、誰かの今回の質問の中で、申し込んでも日にちとか場所とかとれないとか町長言っ
ていたけれども、いつどういうふうに申し込んでとれなかったのですか。ある私の質問の中で、申し
込んでいる人は少ないと言っていますよ、答えている人が。いつかということは、例えば音楽を聞
くことだって2年に1回と教育長は私の質問に答えているのです。2年に1回であれば、2年前に
ちゃんと借りる手続をすればいいのではないですか。高崎市音楽センターでもNHKホールでもい
いのですよ。4年に1回でもいいのですよ。ちゃんと申し込んでおけばいいのですよ。それで外へ
出ることによって井の中の蛙ではなくて、ああこういういろいろな人がいるのだな、こういう建物
が東京都にあるのだな、高崎市にあるのだな、それが学びでしょう。学びなのですよ。井の中の蛙
で同じところにずっといたのでは勉強にならないのですよ、人間というのは。ホール、大会議室な
ど大規模集会施設が25施設あるのですよね。野球場、体育館、プールなど運動施設が139施設、キ
ャンプ場、遊園地などレクリエーション施設が25施設、美術館、図書館など文化展示施設が45施設、

研究施設などの教育施設が9施設、老人福祉センター、これが平成12年度で14施設、合計で257施設もある中で、来年つくってしまうよなんて、私にしてみればちょっとこれは冒険です。町長、ぜひこれは、もしどうしてもやるのだと言ったら住民投票をしてもらいたい。どうですか、その辺、町長。町民にあなたは人気があるのだから、邑楽町有権者数のとにかく3分の1も票もらってしまうのだから人気があるのですよ。だから、自信を持って町民投票を、10年後につくるか、5年後につくるか、来年つくるか、そういうやっぱり部門を分けてやってもらいたい。その辺町長、急に言われたからってちょっとわからないから、後で変えてもいいからちょっと今の心情を聞かせてもらいたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども7年あるいは10年先を見据えて長期的に考えたらどうかということのお話がありましたけれども、さきの議員にもお答えをしたかと思えますけれども、この計画は、本当に長い年月をかけて今日に至っているということは、議員もご承知のとおりだというふうに思います。そういう計画の上に立って一つ一つこの計画を達成していく、完成させていくということは、お預かりした私の責任でもあるというふうに思っております。したがって、その必要性については、先ほども申しあげましたから省略をさせていただきますけれども、ぜひ議員の皆さんにもご協力をいただく中で、この施設の完成の暁には、私は十分活用されるであろうし、また今ある施設の一極化ということにもつながる。そして、生涯学習の事業が円滑に推進できていけると、そういうふうに思っておりますので、ぜひ議員におかれましても、ご指導、ご協力をいただきたいと思うわけでもあります。

さて、全町民からアンケートをとればよいというようなお尋ねですけれども、個別の施策について、その都度住民投票のような形で意思を確認するという決定方法も、それはあるだろうというふうに思いますが、政策の決定については、住民の方から負託を受けた長が全体的なバランスを考慮しながら責任を持って決定するということが筋ではないかと思えます。それをチェックするのが住民の代表機関であります町議会、議員の皆さんであるというふうに思っています。こうした本来の責務に照らした場合に、全町民の皆さんからアンケートを実施をするということについては、これは十分研究検討する必要があるだろうと思っておりますし、現時点私の思いとしては、慎重に対応せざるを得ないというふうにお答えをさせていただきます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、先ほど話したように、町長のお金で物を買ったりつくったりするのではないのですよ。これは、あくまでも町民のお金なのです。だから、国民健康保険税、公民館建設は、別々ではないのです。一体なのです。だって補助金も何もないでしょう。補助金が出るのですか、国から県から。出ないとちゃんと課長も説明しているし、副町長も説明しましたよ。町長答

えてください、ちゃんと補助金があるかないか。出るか出ないか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、町民の皆さんからお預かりした貴重な税金ということです。それから、先日もお答えしましたけれども、この施設整備にはそういった補助金制度は、現在のところはないということです。

それから、もう一つお答えをしますけれども、先ほど国民健康保険の加入者と町民の皆さんの考え方については一体だというお話がありましたが、これは議員にもちょっとご理解いただきたいのですが、国民健康保険については、その加入者が対象ということになるわけですね。社会保険とかほかの国民健康保険以外に加入されている方については、今議員が言われたようなことについては、ちょっとこの範囲が違うものですから、その辺のところだけちょっとお示しをさせていただきました。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 確かに町長が言うように出どころは違うと思います。けれども、給料を払う会社、または公共団体、大もとは国民であり町民が、例えば電気料を払えばその中から東京電力はいろいろ支払っているのですよ。大もとはみんな人間が払っているのですよ、等しく。そのルールの中で。細かく輪切りにしてしまうと、確かにそれはこれはこっちのお金だよ、こっちのお金だよということになるけれども、であればその裏を返せば、施設へ入っている人は、病院で寝ている人は払わなくてもいいのですか。俺は使わないから払わないよと、中央公民館を俺は使わないのだと、それと同じこと言っているのですよ。国民健康保険は町に住んでいる人たちが入っているのだよと。我々公務員は共済組合だよとか、そういうことを言っているのと同じですよ。けれども、中央公民館をもしつくれた場合の今までの積立金は、みんなが等しく税金を出して、その中から出しているのですよ。それで、勇気が必要なのは、私はつくっては悪いと言っているのではないのです。7年、8年積み立てた中での要はリスクのパイを小さくしておかないと弱者が大変なのですよ。それで、1つの例が前橋市の清掃工場を白紙に戻したでしょう。これは、今の施設を使っても十分できますよと。大きな設備投資しなくてもいいのではないかと。それで前橋市は白紙にしているのですよ。町長が自分の金を出すのなら何やってもいいのですよ。けれども、先ほどから何回も言うけれども、本当に病院でお金を払って、また施設で払って、今度は在宅介護でヘルパーが来ればヘルパーに払って、そういう大変な生活をしている人の心が何でわからないのですか。私はつくっては悪いと言っているのではないのです。ちゃんと積み立てて、あなたが、町長が、前の教育長が苦勞して一生懸命働いたお金を町に還元してくれた、ある意味ではそこでストップしてしまっているから私は悪いと思う。堂々とまさかちゃん基金とか何とか、俺が寄附したのだとか、俺がためたのだと言って堂々とやればいいのですよ。そういうアイデアが今のこれはないのですよ。

だから、ぜひどうしてもやるのだったら、住民投票してもらって、これ町長が提案できるのだから。1票でも多くの方が26年度につくれよと。予算組めよと言ったらそれでいいのではないですか。堂々ともっと仕事をやってもらいたいですよ、夢を語って。だめですよ、何でもこそくにあっちだこっちだって、もっと大義名分が町長には少ないですよ。これからも応援はしますけれども、私の政治姿勢をこれからも町長にぶつけていきますよ。ということは私はあなたに約束しています。私はあなたの塩になりますよと。そうでなかったら邑楽町2万7,000人の町民がかわいそうです。これからは、先ほど話したように20年後は3人に1人が60歳以上になるのですよ。誰が税金を払って、みんな共助、お互いに助け合うのですか。もう少しもっと弱者の気持ちに立ち返って、そして功成り名を遂げた人は、名誉職ですよ、町長は。ある意味ではもう我々議員と同じ給料でいいのですよ。ある意味ではね。そのかわり出張料たくさん取ればいいのだ、前橋市へ行ってきたから1万円もらうぞとか、トップセールスって言っているでしょう、自分で。セールスしてどんどんとにかく町のために働いた分もらえば、別に幾ら給料もらったっていいのですよ。弱者がいい生活できればいいのだから。

そういうことで、まとめとして私は、まず住民投票をしてくださいということ。それと、弱者に限りなき優しい政治をやってもらいたいと。そういうことで皆さんにお願いして、きょうの一般質問を終わりとします。どうもありがとうございました。

○立沢稔夫議長 暫時休憩をします。

〔午後 2時30分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時45分 再開〕

○立沢稔夫議長 町長から発言の申し出がありましたので、これを許可します。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどの質問の中でヘルパーの講習会の経費の関係ですが、24年度ですが、総事業費が120万円ほどかかり、そして参加人員が40名、1人当たりの個人負担が3万円ということで120万円ということの経費がかかって執行されたということで、つけ加えさせていただきます。

〔「了解」と呼ぶ者あり〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○立沢稔夫議長 10番、小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 10番、小沢泰治です。私も町民の負託を受けて議員にならせていただいたわ

けですので、議員の責務によりまして、また議員がこの席に立って唯一できる一般質問であります。町行政をただし、また町がどのように進んでいったらよいか、どうあるべきか、町に対し提案し、提言し、直すところは直すようにこれから質問をさせていただきたいと思えます。

まず、質問に入る前に、今回は合計で10人、9人の皆さんから邑楽町の今将来について、あるいは過去について話がありました。今非常に厳しい中にあるわけですけれども、過去を振り返ってみますと、第三次総合計画が昭和62年だというお話を先ほど聞きました。昭和62年ということは、昭和64年が平成元年ですから1987年です。1990年、91年ですか、バブルがはじけまして、大変な日本経済、またその後の世界の経済不況、あるいは秩序が乱れる、内戦が起きる、そういうのが現況だと思います。そんな中で、バブルのときの今アベノミクスで株価が上がっているどうのこうの、話が出ております。補正予算も13兆1,000億円も組んで何とかしようとしているわけですけれども、バブルのときの株価が、砂漠に行こうやですか、3万8,915円なのです。それで4年前のリーマンショックのときが7,054円、現在がきょうが1万3,300円、そういう時代、経済背景があるわけです。また、邑楽町に私たち住んでいて、またこの近辺を見れば、邑楽町では地価が5分の1、ピークは40万円も住宅地でもしたところがあります。今は8万円前後、いいところで。そういう時代になっています。また、国の借金は1,000兆円、町の人口を見れば、第五次総合計画では、平成27年度中には2万9,000人の人口設定してあります。そんな中、邑楽町の人口がピークだったのが2万七千八百数十人ですか、そういう中にあり、また現在の人口が、きょう庁舎に入るときに見ましたら2万7,505人が3月1日の邑楽町の人口です。高齢化、少子化がますます進んでいて、町長が1回目の選挙、2回目の選挙、最初の選挙のときから毎年毎年町の人口は減り続けております。ふやすことができないのです。そんな中で、近い将来邑楽町がどのようになるか、どのようにまた歩んでいったらいいかというようなことは、推して知るべしです。そういうことが前提にあるわけです。

そこで、質問をさせていただきます。まず最初に、町の現況と東毛での将来の邑楽町について、これはなぜこういう質問になっているかといいますと、邑楽町は地理的に地域的に東毛の中心であります。そういうことがありますからこういうことになるのですけれども、邑楽町の位置、地勢について日本全体から、あるいは関東から、北関東から、東毛、群馬を考えてみて、町長、どのような位置にあってどういうことができるか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この東毛の地における邑楽町の地勢というのは、私は大変住みよい、そして他の市町に負けないよいところだというふうに認識をしております。そのことは、特に最近では道路のアクセスも含め、また環境の面でも自然が豊かな、そして人に優しいこの町だというふうに思っておりますから、そのことを考えれば、邑楽町のこの地というのは、多くの皆さんにも住みよい、住みたいというふうな思いがされている町ではないかなというふうに思えます。

それでは、そのような状況でどのような行政執行ができるかということでもありますが、これについては、常々あるいは年度初め等に施政方針でも示させていただいており、それぞれの担当する課でその年によって特に力を入れていくという部分があるわけです。今年度については、これからご審議をいただくわけですが、教育関係についての問題、それから福祉関係も大変子育てがしやすいような予算編成等を考えますと、やはり住民の皆さんに直結をした行政需要を施していかなければならないのかなというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ただいまお話いただきました。そこで、最初に私がお話ししました株価の件、3万8,915円、現値が1万2,300円、土地がピーク時の5分の1、国の借金が1,000兆円、町の人口が2万7,505人、高齢化、少子化、近い将来の人口の減少、町長になってから邑楽町の人口は減り続けている、そういうことを念頭に置いたときに、昭和62年第三次総合計画ができ、平成23年に第五次総合計画後期基本計画ができて平成27年に終わろうとするわけです。そのようなときに町がどうあるべきか、どう進んでいくべきか、そのことについて、先ほどの数字を念頭に置きながらお話ししてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町のほうでは、第五次総合計画の最終目標年次を平成27年に置いているわけですが、その目標は、「やさしさと活気の調和したまち“おうら”」というものになっております。その目標達成のためにそれぞれの事業を進めているわけですが、やはり何といても、私は人口の減少ということは社会現象でもあり、景気の低迷ということも、これは大きなグローバルな問題として捉えていくということであれば、なかなかこの一町のことですらどうこうするというにはなりません。そのような環境の中で仕事を進めていかなければならないわけですので、やはりこの目標である総合計画に近づけるように日々努力をしていく、これは執行部に与えられた仕事でもありますし、また議員の皆さんにいろいろご指導いただく部分が多々あるかと思っておりますけれども、そういったことを基本にして進めていく姿勢が大切であると、そのように考えております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、言うことは誰でも格好よく言えるのです。でも現実、長期総合計画を見ればそれが実現されていないわけです。また、現下、今置かれている町の状況があるわけですから、そういうことを考えた中で、なぜ先ほどお話しくださいましたすばらしい地域の邑楽町、それを生かすことができなくて、2万9,000人の人口目標に対して現在2万7,505人、なぜ生かせないのですか。これは、施策が悪いからだと思うのですが、すばらしい環境だということは、町長も理解していますよね。それが生かせないで人口も低迷している、なぜでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 人口の増加には自然増と社会増ということがあるわけですね。自然増、いわゆる少子化を迎えている。これは、私たちの町だけでなくして全国的な状況になっているわけですね。したがって、その人口を増加するというのに考えていった場合には、やはり子育てがしやすい、産み育てやすいというような施策が必要ですし、邑楽町においては、それらについては、既にご理解をいただいているところですが、残念なことに、以前よりも増して横ばいあるいは少ないという状況はあります。それから、社会増については、議員、この工業団地の集積だとか、あるいは先ほどもご質問がありましたけれども、雇用を促進するということの企業誘致ということが視野にあるのかなと思いますが、これら産業集積については、昨日の議員のご質問にもお答えをしましたので省略しますが、既にできている団地については、この企業が立地をさせていただいておりますね。その社会増も含めて、町のほうでは企業誘致のための奨励金、あるいは雇用をした場合に、その事業主に補助金等も考えての制度があるわけですが、なかなかこの部分については、十分な効果が出ていないのかなと思いますが、ただ1つ言えることは、邑楽町に立地をされている企業が他の市町へ移動してしまうというようなことを、それらの部分で考えていただいている。移動が少ないということは、その制度の効果は十分あるのかなというふうに思います。しかし先ほどの世界的な経済の中で、やはり事業主の方が十分な経営ができないということになってしまった場合には、やはりほかの町へということもありますけれども、合理化のためでしょうか、そういうことあります。私がお世話になってから年々人口が減ってきているということについては、私の施策にもそれはあるのかもしれませんが、全体的な流れの中でそういった現象が、少子高齢化ということの大きな原因になっているのではないかなというふうに考えているところでもございます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 少子化というのは一朝一夕では解決できない問題です。それで、子育てのためにどうこう今邑楽町はしていますということでお話ありましたけれども、町長それは日本中がやっているのですよ。日本中がやっていて、他市町とあるいは他県と同じことをやっていたとしたら、ふえるわけないでしょう。ですから、自然増減云々ではなくて、社会増減を図るためにどのようにしたらいいか、先ほど最初の質問の回答でも非常にいい位置、場所にあるというお話出ました。それをなぜアピール、宣伝できないのですか。私は、それは原因もあると思います。邑楽町が混乱していた、でたらめで町長になった、なれた、町民をだまして。その結果として、他市町に行っても胸が張れない、どこから見てもだめだという、まずトップがね、そういうふうに見られてしまう。邑楽町は、もろもろの経済圏、この邑楽町の周りの大都市というか大きな町の経済圏の中で一番中心ですから、ここに居を構えてください、すばらしいですよ、自然環境もいい、あるいは子育てもいい、そういうことを訴えていないのではないのですか。より一層それをしなかつたらだめなのです。そのことについてどのように現在考えていますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 子育て環境については、転入をされてこられた方々の意見ですが、大変力を入れていただいております。具体的には、出産する場合の経費の軽減、それから幼稚園に入園する場合に、居残り保育ということも、うちのほうの町は全て公立ですけれども、他の市町に比較してその点では子育てがしやすい、働きやすいというようなお話は聞いております。他の市町よりももっと積極的に取り組むべきではないかというご提案ですけれども、これはそのとおりだというふうに思います。そう思いますけれども、やはり先ほどの議員の中にもありましたけれども、福祉行政、介護保険もそう、一般行政の行政需要もそうだと思います。公平にやはり事業執行していく、限られた予算の中です。十分とは言えませんけれども、そういった公平なバランスのとれた仕事をしていくということが大切だというふうに思いますので、特に少子化の問題については、私は決して他の町に比較して劣っているというふうには思っておりません。ぜひまた議員のほうでいい案なりアイデアがありましたらいろいろご指導いただければ参考にさせていただければと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、先ほどの話もそうですが、今の話もそうなのです。国が少子化で大変だ大変だということですから、少子化対策としてもろもろの補助金も出すし、国、県も応援をしてくれている。そういうことなのです。ですから、他市町から越して来られた方が、過去の他市町と比べて今邑楽町がいいというのは、それはごく当然なのです。町長が何もしなくてもそういうふうになってくるのです。それが現実、実情だと思います。そういう中であって、ただ黙っていれば人口が減る、ですから町が一生懸命もろもろ考えないとならないのです。子育て支援やっています。また、邑楽町で生活している人がみんな満足するようということをやっています。しかしながら、高齢者は、老後の不安があるから貯金をして金を財布から外に出さない、そういうのが実情なのです。次の題ですけれども、人口の減少が続く現状の邑楽町をどのようにしたら逆にふやせるか。今町長がお話ししました子育てについては、他市町よりもというお話していますが、それはもう国がやっているのです。そうでなくて、邑楽町としてどのようにしたらふやせるか、どう環境づくりをしていくべきか、その辺をお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 国であるいは県でやっている施策、これは全国共通な部分があるわけですね。県の部分は違いますけれども、全国でやっている、国でやっている分については、そういうことが言えるかもしれませんが、そのようなお話をさせていただいているということは、私はそういった施策を町独自で行っているということにつながるのだと思います。全く同じであれば、私はそういったお話にはならないかと思っておりますので、やはり邑楽町は、そういったよい環境づくりを議員の皆さん

の協力をいただいてやっているということでもありますから、ぜひその辺はご理解をいただきたいと思います。この社会増ということ、もちろん以前は隣町に大きな会社等が立地をされて、そこへお勤めになっている方が大変おりました。しかし、現状はあのような大変厳しい状況になっているわけですね。それは、やはり町で防ぐということから、努力はしなくてはなりませんけれども、どうにもならない部分というのもあると思うのです。ですから、だからといって決してそのまま見過ごすわけにはいきません。もう何かあれば積極的に取り組んでいかなければならないというのはそのとおりでありますけれども、残念ながら現状ではそういうことを認めなければならない状況です。昨日の質問にもお答えしましたが、今後いわゆる産業集積地等については、具体的に県のほうともこれは連絡とり合っているわけですから、結果がどうなるかわかりませんが、それに向けて努力をするということは、お伝えしたとおりです。それが将来的に今議員が懸念されているところに結びついていけば私はありがたいかなと、そんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そういうことやってもなかなか大変だと思います。ただ、やはり過日ある町の偉い人とお会いしたときに、私に「本当にありがとうございました」と握手するのですね。「ああよかったね」という話なのですけれども、ある町といいますか、ある首長は、大泉町の印刷会社がそこに大金を投じて会社、工場をつくる、そういうことで、いやうちのほうにできたのは邑楽町のおかげですよ、本当に感謝しますということで、それこそ涙が出るほど喜んでいました。そういうこともありましたけれども、非常にやはり何を考えて何を実行するか、将来を見据えて何をするかということが非常に大事だと思うのです。

それで、邑楽町に先ほど住んで喜んでいてという方いらっしゃるということですが、それで当然なのです。これだけ自然豊かな場所ですからいいわけなのです。そして、邑楽町に住んで、また子育てして育った人間が邑楽町に住み着く、私の子供たちの年代は、本当に多くの子供たちが外に出ていってしまいました。いい例が、当時できた新中野団地を見れば、今一人家族、二人、老老介護、そういうのも結構ふえているわけです。そのようになってしまったのが困るわけなので、そうならないようにどうすべきか。例えば、最終、終末、私たちが生まれてから墓場までということをよく言いますが、その辺につきまして邑楽町の世帯は非常にふえました。お寺もいっぱいありますけれども、墓地の問題もあるかと思えます。安心してあの世に逝ける、そういうことで大泉町には公園墓地ができましたけれども、邑楽町としてどのようにその辺を考えているか。現在あるお寺の墓地でなく、そのほかの誰でもが入れるといいますか、利用できる墓地の件についてどのようにお考えであるか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員突然の質問なので、ちょっと時間をいただきましたけれども、その墓地の計画

については、現在町のほうでは計画はございません。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、総合計画で人口2万9,000人、平成27年度末大目標があるわけですから、それに向かってぜひ社会増、当面ですね、社会増になるように頑張ってください。少子化、自然増というのはなかなかこれ難しいものですから、それもやはり力を注いでいけば、少しずつは改善すると思うのですけれども、その辺をぜひ図るように取り組んでいただきたいと思います。

続いて、広域的社会資本の充実、何をすればよいか。先ほど来もろもろ問題になっていました公民館ホールの件もそうですけれども、町長は邑楽町の首長として、やはりこの東毛地域で、邑楽町が置かれている東毛地域で主導権が握れる人間、リーダーシップがとれないようでは邑楽町町民の幸せはないと思うのです。いつになっても邑楽町は農村の町だ、あるいは道路整備はよくなっていない、そういうことで周りから見ても非常に厳しいところがあると思います。邑楽町が東毛の中心であるがゆえに、町長が東毛でリーダーシップをとるためにはどのようにしたらよろしいかと思いませんか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、先ほどの社会増の取り組みのことなのですが、これは資料によりますと、町の総合計画では最終目標人口ということが示されておりますけれども、これが国勢調査の人口調査なのですけれども、近隣の市町の人口の増減を見ますと、残念なことに全ての市町が減少なのです。邑楽町もその1町なのですけれども、そういうことを考えたときに、非常にこの目標が達成がということになると、現状では大変厳しい状況かなというふうに思うわけですので、ちょっとその部分をお答えさせていただきます。

それから、東毛の地での私が邑楽町長がリーダーシップをとれるかとれないかというお尋ねですけれども、東毛の地は、あえて申し上げれば、東西には大きな市もあります。郡内にも5町あります。それぞれ立派な首長ですので、私も町民の方から選ばれた以上は、一緒になって頑張っていくという気持ちではあります。隣の大きな町の方を超えて何とかしたいという気概はありますし、頑張る気持ちは負けませんが、ちょっと自分自身そのことを考えたときには、力不足になってしまうのかなと、正直な気持ちとしてそのように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長は、私が思うのに、みんなもそう思っていると思うのですけれども、2市5町が東毛にありますけれども、広く言えばみどり市だの桐生市もありますけれども、2市5町の中であえて言わせてもらえば、革新首長はうちの町長だけだと思うのです。そういうことで、ぜひ群馬県、邑楽郡、東毛、そういうことを言って胸を張ってリーダーシップとれるようにぜひお願いしたいと思うのです。なぜかといいますと、その辺がみんな思っているのは、やはり組合活動が

あるのです。そういう中でリーダーシップをとってきたわけですから、その辺もあります。ですから、非常にこの群馬県においては、厳しい立場があると思うのですけれども、それを乗り越えてこの東毛の発展に期するようにリーダーシップをとっていただければと思うのです。社会体制、あるいは自由経済体制、そういうものの中で邑楽町がこれだけ自然環境すばらしいものがあるわけですから、社会環境もあるわけです。それをそういうことで頑張っていただければと思うのです。今の私の話に対してお答えがありましたらお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 他の市町に負けないように一生懸命頑張ってまいりたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そういうことで、群馬県は非常に保守といいますか、自由民主党が強い地域でありますけれども、そういう中でぜひ邑楽町の立場を強くアピールするように、町の行政の組織もそのような方向で進んでいただければと思います。

続きまして、邑楽町の第五次総合計画、平成23年から平成27年までの基本計画の事業実施についてですが、平成25年度が始まります。大々的にこの計画を見直すつもり、あるいは自分自身の思いはありますか。現実にもう5年、6年目に入りましたけれども、総合計画のように全然進んでいないと思います。なぜかといいますと、過去に従ってやっているだけだからなのですね。見直しが必要と見直しをしようと思えない、しない。先ほど来議員からのもろもろの話もありましたけれども、その辺がリーダーとして、会社であれば社長ですよ、その辺がなっていないのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 総合計画については10年間という期間設定、前期は終了しまして、後期に入ってきているということですね。その計画に盛り込まれたものについては、その都度その計画が実施に移されているか、事業化されているかということについて、ローリングでの話し合いを担当する課としていくわけですね。それは、現実に進んでいないものの中にはありますけれども、その計画に基づいて粛々と進めていくということになっていますので、これは計画が先送りということもありますけれども、できるだけその計画にのっとってローリング作業も行っていますし、事業も行っているということでございますので、長い期間での計画ではありますけれども、順次実行に移して目標に向かって進んでいきたいと、そのように思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 長期計画に従って進めている、実行をしているということですが、先ほどもお話ししましたように、邑楽町が置かれている現況が当初の第三次、第四次、第五次に入りました

けれども、その時期と例えば公民館構想であれば、ホールつきのであればバブルのときの事業計画なのです。何考えているのですか、町長。20年も25年も前の日本経済、株価が3万9,000円、そういうときのことを引きずって、邑楽町がいろいろ進んで進みますか。人口も減っているのですよ。だとしたら、町長のお話も今ありました。ローリングプランを立てて、こういうことが長期計画に沿っていない、それに合わない、その現実を直視して計画を実行していかなかったらだめだと思うのですけれども、現実には邑楽町がこの後高齢化して、若い人たちが少なくなる、邑楽町背負っていけますか。みんな年金生活です。年金も減額になっております。いかがですか。ランニングコストがかかるもの、あるいは行政がもう決められた中から自分の収入は得られる、そういう社会ではないのです。どういうふうに思いますか、町長。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、今の状況で推移した場合に、邑楽町がどうなのかということなのですが、私はその経済の状況によっては多少の変動はあるでしょうけれども、存続をし、きちっとやけるといふふうに思っています。それは、その時々的情勢がありますから、柔軟に対応していかなければなりませんけれども、そのことによって町がなくなってしまうとか、もう立ち行かなくなってしまうということがあっては、これはもう執行者の責任でもありますから、そのようなことはまず心配がないというふうに思います。

そして健全な財政運営を努めていくということにつながるわけですが、これはまさに現状では、きのうもご質問にお答えしましたが、私は健全な行財政運営がされているというふうに考えております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 現実が長期総合計画と乖離しているわけですよ。過去に計画を立てたから今でも無理やりそれを実行するということが自体が間違っているのだと思います。先ほどもお話出ました、他の町の公共施設、稼働率が低い、ぜひ他の町の公共施設も使ってくださいという話も出ているわけですから、そういうことで邑楽町でそのようなことを進めてもいいものか、現実が変わっているのです。昭和62、63年のときと今は変わっているわけです。そういう中であってどうあるべきかということを考えるのが経営者ではないのですか。だとしたら、やはりアンケートなり投票なりしてもらおう。ホールつきの公民館、15億円も16億円もかけるわけですから、随意契約、そういうこともないのですけれども、ただ町長以下がやるのだということでは、それは町はおかしくなりますよ。なぜならば、現在であっても邑楽町でもろもろの行事を行う場合に、どうしても人数が入り切れないから大変だということは、本当にわずかだと思います。その際はぜひ近隣の施設をお借りして、相互利用できるわけですから、それで実行すればいいと思うのです。過日郡内のボランティアグループの会合ありましたけれども、どこでするか邑楽町ないなということで困ったらし

いです。でも実行はできましたが、不自由を来す面もあった、そういう中であっては、やはりほかの町の施設を、大泉町で借りてもいいのです。板倉町、明和町、千代田町、邑楽町、大泉町がやるわけですから、そこを相互利用すればいいわけです。見えを張って邑楽町でつくって、毎年毎年何千万円の金をかける必要ないです。そこには役場職員だって張りつけなくてはならない。だとしたら、その人件費だ何だ考えたら大変なのですから、そういうのを考えて、ぜひローリングプランをつくって、それで物事を実行していただけたらと思うのです。

ですから、公民館ホールについては、過去4回検討委員会実行したということですから、白紙に戻して、住民投票といえますか、町民のアンケートをしっかりとって、邑楽町がこういう人口の推移をします、社会減、自然減、このようになっています。また、他市町がどこの町も人口が減っていて、施設はしっかりしたものがあります。そういう状況なのですけれども、いかがであるか、もろもろの指数、設備、そういうものを1枚の紙にわかりやすくまとめていただいて、こういう中であって大きな施設をつくるべきか、またこの地域で相互利用すべきか、白紙に戻してアンケートを実施していただきたいわけです。とんでもないです。昭和62年にそういう計画を盛り込んだから今もそのまま実行するのだなんて、そんな経営者がいますか。そのことについてご回答をお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この総合計画はプランを立てて、そして平成27年度までの計画ということですね、これは大きな計画ですから、町独自でということではなくて、策定委員が策定をして、そして議会にかけて、議会で議決をいただいて、この仕事を進めさせていただいているわけですね。これはご存じだというふうに思いますが、そういうことが大きな前提ということにあるわけです。さて特に中央公民館についてのお尋ねですから、まずアンケートをとることについてというふうなことについては、先ほど申し上げましたけれども、これは現段階では慎重に行わなくてはならないだろうというお答えをさせていただきました。

それから、白紙に戻すということですが、これについては、検討委員会を今進めておりますので、順次検討をこの基本的な考え方、基本的な思いといえますか、それが後ほど出てくると思いますので、きのうも申し上げましたけれども、その都度議員の皆さんにお示しをしていろいろご協議をいただくということでございますので、今の時点では、この検討委員会をなくすということについては考えておりません。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 検討委員会4回なされたということですが、1回目に委嘱なりもろもろあったと思うのですが、そういうことで、もう最初から検討委員会の結果を私たちに報告をいただく。そうしたならば、その段階で多分この東毛地域の現状、また邑楽町の実情、そういうことを考えた

ときに、見直したほうがいいのではないかというのが出てくると思いますよ。それでまたそういうことをやったならばそのときにアンケートをとって、もろもろの公民館の利用頻度が高いのだ等々出ているかと思うのですけれども、いつも私お話ししますけれども、リピーターだと思うのです。邑楽町全域、全階層の人たちがそれを使ったのをあわせたのではないのだと思うのです。実際に何万人という利用者が出ているのは、1週間に1度、1週間に2度、そういうふうにご利用なさっている方々の団体、そういう方の積み重ねがその数字になっていると思います。群馬県中で利用率が高いのだどうのこうの、話出ています。当然です。群馬県の町を見れば邑楽町は大きな町のほうなのです。いっぱい利用してくれるのは当然なのです。そういう中で、その検討委員会が開かれたたびごとにやっていただければ、こういう問題は起きないと思います。また、広く町民の意見を吸い上げた中で、現状はこうなのだがどうだということのアンケートをとっていけば、こんなことはならないと思います。

過去をさかのぼればこの庁舎問題もそうです。ある建設検討委員ですか、役員の改選があったときに、訴えたり何だりした問題があったと思いますけれども、現状をしっかりお話しすればそういうことも起きずに白紙撤回ができ、邑楽町が進むべき道が開けていくものと思います。そういうことを考えたときに、町長、邑楽町が委員を解任したからもめることはないと思います。人口の問題、経済の問題、税収の問題、もろもろを考えたときに、将来の東毛の合併考えたときに、ぜひ見直すべきだと思うのですが、いかがでしょうか。白紙撤回をして。よく考えていただいて。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 中央公民館の検討委員会は、中央公民館を建設をするということを前提にして、しからばどのような施設整備が必要なのか、どういう内容にしたらいいのかということを微に入り細にわたって検討していただいているものですから、私はその検討委員会をなくす、白紙にするということについては、先ほどお答えをしたとおり考えていないということでご理解いただきたいと思っています。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 いや、町長違いますよ。当初は、邑楽町につくるべきかつからないほうがいいか、それも含めて会議を開くということなのですよ。今のお話だともうつくるのを前提でやっているのではないですか。そんなまやかしではだめですよ。この厳しい邑楽町を見てくださいよ、人口構成から見て。あなた民間ではないからそんな悠長な状態でいられるのですよ。ここにいらっしゃる議員の皆さんは、ほとんどが民間出身だと思います。町長、実情とこの計画を考えれば、整合性がないといいますか、向こう見ずだと思いますよ。先ほど来文化面の、あるいは子供たちの学習にも効果があり非常に役に立つのだと言いますが、やはり自由経済体制、社会主義は別です。共産主義は別です。自由経済体制にあっては、やはり入るを量って出ざるを制しながら、皆さんが

豊かな生活ができるようにしなければならないわけなのです。その辺を考え、頭に置きながら、この計画についていかがですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどお答えをしたことをご理解をいただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 三十八、九年町役場で安定した収入を得てきた町長ですから、やはり井の中の蛙で外に出ることはできないのだと思います。そういうことで、それはさておきまして、先ほど東毛においてリーダーシップをとって、町長、そういうことで、なぜそれを私がお話ししたかという、邑楽町は、早く町長が合併、合併、合併と言えはいいのですよ。なぜならば、少子高齢化で大変だから合併と言えはいいのです。なぜならば、黙っていてもここは地理的に中心なのです。ですから、少子高齢化、財政が豊かではない、明和町は別です。太田市もある意味別な考えを持っているところです。でも、この東毛という太田市の先に立っている人は小さい人間ではないから、この東毛においては1つになって、なお強く日本一になればいいという考えを彼は基本的に持っていますから、ですからそういうのを考えたならば、少子高齢化の厳しさ、千代田町なんかいい例ですよ。板倉町だってそのとおり、もう70年も人口が減り続けているのです。そういうところなのですから、町長がほかの西邑楽3町がどうのこうのではなくて、合併合併で走っていればいいのですよ。ただし、町長は先ほどもお話ししましたが、2市5町の中で唯一の町長ですから、非常に難しいところがある。でも合併合併でいいのです。なぜなら館林市も大失敗、邑楽郡、特に邑楽町も大失敗なのですけれども、大泉町もだ。これが合併していたならば、館林市、大泉町も邑楽町よりよっぽど多いのですけれども、各民間の事業所、あるいは公の出先、事業所、営業所、支店、支社、そういうものが太田市に引き上げられないで済んだのですよ。東北自動車道は走っている、東武伊勢崎線は走っている、国道122号線はある、国道354号線はある。なんだから町長、そういうことで自信を持って合併合併でいいのですよ。2市5町の合併、それは今そんなことを言っていると邑楽町、館林市の議員は、みんな小沢泰治をばかにする。けれども、民間事業に携わっている私は、もう将来が読めている。そういう意味で、ぜひその先に立って合併合併をお願いしたいのだけれども、3町でなくていかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のご意見の中に合併合併として進めというようなご意見がありましたが、議員みずから難しいところがあるということを考えますと、これは私もおかしいものがあるのかなというふうに感じます。したがって、合併合併については、議員のご意見として受けとめておきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 金子町長、そういうことは一切ありません。実情は全部の市町がわかっているのですよ。少子高齢化、日本の企業が外国へみんな出ていってしまった。どこも同じ、ただし毎日毎日私たちが食する食品産業については、ある一定の部分までは大丈夫です。しかし、食品産業にしても人口が減っていたら消費は減るのです。ですから、合併合併を唱えてください。

次に入ります。行政区の見直し、私の場合は合併が前提としてのその前に5行政区を見直せということなのですけれども、現在50世帯の行政区から1,000世帯以上にもなる行政区があるわけです。それを合併統合をしまして、分割もしまして、今の34行政区をならして17行政区にしようとする町長の気持ちがあるか。また、行政区の区長さん、代理区長にそれを進言するか、邑楽町の将来、人口減少あるいは合併等を考えたときにどうなのだというところで話をする気持ちがあるかどうかお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この行政区の再編ということについては、過去にもそのようなご質問を受けたことがあります。しかし、再編をするということになりますと、地域、地域での実情がそれぞれいろいろなものがあるわけです。再編ということは、私は大変難しいだろうというふうに思っています。したがって、以前そのようなお話が出たときに、このようなご意見が議会の中でありましてということ、お話をした経緯はありますが、やはり今申し上げましたようなこの区民の方々が共同認識をしていくということの部分はその再編に向けてないと、なかなかこれは難しいのではないかとこのように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そこで、町長、その次に入るのでございますけれども、協働の町づくりということで補助金を配ると。それではだめなのです。この協働の町づくりを提案したときに、どこのあたりまでお話ししましたか。この議会に報告云々ではなくて、お聞かせください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町づくりの活動に対する補助金ということは、議会のほうにお示しをしたというだけでありまして、それも大変私どものほうの不手際で十分な内容になっていなかったということでもあります。今後それらをいろいろご相談申し上げて、ぜひその要綱をお認めいただけるようにしていきたいと、その後においては、行政区、あるいは関係者に対しても広くそれを広げていきたいというふうに思っておりますが、現時点では議員にお示しをしたというだけであります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 これも公民館ホールと同じなのですが、白紙撤回してください。そして、こ

これは協働の町づくりですから、町民が参画しなかったらだめなのです。一部のお楽しみ会ではだめなのです。邑楽町の超高齢化社会、超少子化社会、その中での協働の町づくりですから、ぜひ行政区を2分の1に減らして、そしてその行政区をもとにした各隣組でもどういふのでもいいです。そういうものをつくり上げてください。毎年毎年予算から自分たちの給料がもらえている、特にここにお座りの方は、多額の金もらっていますけれども、その方々が決めたものを下にトップダウンではだめですよ。ましてや議会にもこの間話があっただけでしょ。白紙撤回して、アンケート調査なりしていただけますか、端的に教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この邑楽町協働の町づくりの要綱案については、ますます議員の皆さんにご相談申し上げて、中身を密なものにして、そしてこの要綱をお認めいただいた後には、粛々とよい町をつくるために努力をしていきたいと、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 執行部が上げてきたこの協働の町づくりは、私に言わせれば全然なっていないですよ。町民を参画させるというお話ですけども、この要綱案ですと、本当に偏った一部の人が上から上がってくるだけですよ。ですから、ぜひ行政区を分割統合して、そして町民が活躍できる町のために、白紙撤回して行政のために活躍できる組織体をつくっていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 繰り返しになりますので、先ほどお答えしたとおりなのですが、ぜひ議員にも、よい町をつくるということでの要綱案です。お力をいただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 あくまでも白紙撤回をして新たなものをつくり上げる、それをしてぜひそういうふうに協働の町づくりをして、住民サービスがしっかりできるようにつくっていただければと思います。それで、庁舎内の仕事につきましても、総合サービスといいますか、町民が満足して帰れるような町役場にしていいただければと思います。

続いて、邑楽町の観光資源である白鳥の飛来について、このことにつきましては、もう長い間邑楽町に毎年毎年白鳥が来ておりますので、その実態を産業振興課長にお願いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 大肚産業振興課長。

〔大肚 一産業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○大肚 一産業振興課長兼農業委員会事務局長 お答えいたします。

ガバ沼の白鳥飛来状況についてでございますが、ガバ沼には昭和53年度に初めて2羽の白鳥が飛

来し、これが確認されております。その後の飛来数でございますが、5年ごとの数字をちょっと報告してみたいと思います。昭和57年度22羽、昭和62年度70羽、平成4年度108羽、平成9年度69羽、平成14年度118羽、平成19年度149羽、平成23年度166羽、平成24年度、今年度でございますけれども190羽となっております。この羽数は、その年度に確認された最大の羽数でございますが、白鳥を愛する会の皆さんのご協力のもと、寒風の中調査されているものでございます。

また、白鳥の飛来時期の関係をちょっとご報告したいと思います。平成23年度、平成24年度で報告したいと思いますけれども、平成23年度につきましては、平成23年11月1日2羽飛来が確認されております。平成24年1月18日166羽ということで、そのシーズン最大数となっております。また、平成24年の3月24日は1羽ということで、その後白鳥は確認されていない、いなくなったということでございます。また、平成24年度につきましては、平成24年10月27日に初飛来が2羽確認されておまして、平成25年2月23日190羽ということで、今シーズンの最大数が確認されております。初めて白鳥が邑楽町のガバ沼に飛来して今年度で35年ということになります。ガバ沼に毎年白鳥が来てくれるということは、町にとっても非常に町内外にPRできることでございますし、白鳥まつりもことしで11回目を迎えております。こういった部分で、ガバ沼の環境整備や餌やりといった部分で、白鳥を愛する会の皆さんのご努力とお力によるものがあります。大変感謝しております。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 邑楽町白鳥を愛する会の皆さんが本当に努力して、自然環境の厳しさの中で頑張ってくださっているということで、非常に頼もしいことなのですけれども、私はこの毎年秋口の10月下旬から2月、3月までの間、これは邑楽町の観光資源であり収入源だと思うのです。ぜひそのことについて、町長がこれまでやってきたことについてとりあえずお話しいただけますか。飛来によって邑楽町が何をやっているか教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 白鳥を愛する会の皆さんが本当に献身的に保護活動と申しますか、やっていただいております。その費用についての、若干ではあります、活動費ということで援助はしておりますけれども、同時にこれは餌やり等もやっている。その餌も多くの皆さんからご寄附をいただいて、その白鳥保護に当たっているということ。それから、この白鳥が帰る時期になりますと、白鳥まつりということが行われておりますけれども、その中では多くの方に来ていただいて、町の農産物ですか、そういうものの販売ですとか、町のシンボルタワー等で販売しているものでしょうか、そういうものを求めていただくということ。特に、邑楽町でとれた米について、おにぎり等を食べていただいて、米の消費拡大につながるように、いろいろ関係する皆さんが頑張っているという状況があります。短期間ではありますけれども、まずその白鳥を愛する会の皆さん方が、飛来してからこ

の保護活動をやっていたいただいていることには、本当に感謝を申し上げているところであります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 やっぱり出身が公務員だからですか、やはり10月から2月、3月までいるとしたら、やはりそれを利活用しなくてはいけないと思うのです。例えば、1月であれば石打の観音様と一緒にですね。あるいは桜も邑楽町あります。沼も広くあります、あそこだけでなく。もろもろのそういう邑楽町の、例えばそばもありますけれども、今売り出し中なのが。そういう邑楽町の見どころといたしますか、そういうものを紹介したり、それを通年することによってやはり邑楽町に人が、先ほどもお話ししましたが、人が集まるもろもろ、例えば石打の観音様に来たら、毎月17日ですか、そうすると17日にあちこちの邑楽町のスポットに行かれると思うのです。ですから、そういうのを有機的に活用する、また看板もぜひ立てていただきたい。それで、看板を立てて、例えば石打の観音様に看板を立てたら、その脇には邑楽町が何月にはこれ、何月にはこれ、こういうものがあるのですよということで書き上げてもらえば、では今だからここへ寄ってみるかとか、そういうこともあると思うのです。そういうのが広いそういうものを持たないのが今の金子正一町長だと思うのですけれども、いかがですか。そういうのがあっちこっち立っていますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 特に観光事業ということですが、議員も商工会の役員をやられているようだけれども、町は商工会のほうにもそれ相当の補助金等も交付をしております。そのことは、議員、理事という立場と思いますが、そういう場でやはり一緒になってどうしたものだろうかということも、ぜひ盛り上げる状況もつくっていただければありがたく思うわけです。町としても、そういうことについては大いに利用して、商工業の振興、それから観光事業の振興、農業の振興ということにつなげていくということは、大切なことでありますから、そういった白鳥という一つの資源を、利用して進めていくということは、大切なことでありますから、これからも進めていきたいというふうに考えます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 邑楽町には本当に観光資源がありますね。おうら祭り、産業祭、そのほかもろもろのイベントがあります。そういうものを町が率先して宣伝する、していく、それが大事かと思います。商工会においては、私も精いっぱい意見は述べています。何回も言いますが、電光看板もそうです。非常に効果があります。また、メディアに乗せて、テレビ、ラジオでもいいです。できればテレビがいいですけれども、それに乗せることによって相当の効果があります。私過日佐野市のラーメン屋に行ってまいりましたけれども、1月にテレビ放映されたらその後毎日毎日お客がいっぱいだと、そういう実例もあるのです。ですから、そばの町もそうですけれども、そういうことで観光PRをいっぱいされれば、邑楽町を外の皆さんが見て魅力ある町なのだな、ですか

ら私は幹線道路には電光看板をつけて、町のこと、団体のこと、個人事業のこと、もろもろを24時間流す。そうすることによって呂楽町は底力があるところです。工業出荷もあります。農業出荷もあります。ちょっと商業が弱いです。そういうこと全てをしっかりと呂楽町として伸ばしていく、私たち議員もそれに参画しながら、両輪となって頑張るよう努めますので、全町民にその辺を訴えていただければと思います。広報おうらについても、中身をよろしく考えていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○立沢稔夫議長 これをもちまして一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○立沢稔夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす13日から15日までの3日間は、議案調査及び各常任委員会開催等のため本会議を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 ご異議ないものと認めます。

よって、あす13日から15日までの3日間は、議案調査及び各常任委員会開催等のため休会とすることに決定しました。

なお、16、17日の2日間は、休日のため休会となります。来る18日は、午前10時から会議を開き、平成25年度各会計の予算について審議を行います。

本日は、これにて散会します。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

〔午後 4時16分 散会〕